【3P1B201】ピアノⅠ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。	○
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。	◎
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。	◎
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら演奏の基本を確認します。音楽的知識を修得し、演奏技術と表現を身に付けていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	30	30	-	60
中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10
受講態度	15	-	-	15	30
合　計(点)	15	35	35	15	100

評価の特記事項	実技試験は古典派の作品の演奏を最終試験（前期定期試験）で行います。中間発表（中間試験）はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表（中間試験）、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社（または手持ちのもの）(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし
参考書・教材	個々に合わせて選択します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業説明 各々が選んだ楽曲を演奏 [課題(準備)]　選んだ曲をレッスンできるように準備しておく（2～3h）
2	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（１）　課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心に正確な譜読み [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、各曲１曲ずつ譜読みをする（2～3h）
3	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（２）　課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h）
4	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（３）　課題の確認、強弱・速度・音楽用語 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する（2～3h）
5	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（４）　課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h）
6	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（５）　課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）
7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（６）　課題の確認、仕上げ [課題(復習)]　レッスンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる（2～3h）
8	中間発表(中間試験)：調号１つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（１）　試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)]　試験曲の音を再確認する（2～3h）
9	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（２）　課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h）
10	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（３）　課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h）
11	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（４）　課題の確認、音色 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（2～3h）
12	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（５）　課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力を高める（2～3h）
13	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（６）　課題の確認、暗譜 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h）
14	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（７）　課題の確認、弾き込み [課題(復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）
15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（８）　課題の確認、仕上げ [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（2～3h）

時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】

受講学生へのメッセージ	レッスン内容を楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。

【3P1S202】ピアノII	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。	○
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。	◎
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。	◎
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。 前期に学んだ基礎テクニックを更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	30	30	-	60
中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10
受講態度	15	-	-	15	30
合　計(点)	15	35	35	15	100

評価の特記事項	実技試験はロマン派の作品の演奏を最終試験（後期定期試験）で行います。中間発表（中間試験）はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして中間発表（中間試験）、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし
参考書・教材	個々に合わせて選択します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（１）　休暇中の課題のレッスン、譜読みの確認 [課題(準備・予習)]　課題をレッスンできるように準備しておく 各曲１曲ずつ正確に譜読みの確認をする（2～3h）
2	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（２）　課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニック練習 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h）
3	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（３）　課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h）
4	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（４）　課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、音楽性を高める（2～3h）
5	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（５）　課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h）
6	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（６）　課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）
7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（７）　課題の確認、仕上げ [課題(復習)]　レッスンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる（2～3h）
8	中間発表(中間試験)：調号２つ・３つのスケール・アルペジオ、バッハ　インヴェンション ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（１）　試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)]　試験曲の音を再確認する（2～3h）
9	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（２）　課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h）
10	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（３）　課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h）
11	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（４）　課題の確認、音色 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、各曲にふさわしい音色を研究する（2～3h）
12	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（５）　課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力を高める（2～3h）
13	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（６）　課題の確認、暗譜 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h）
14	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（７）　課題の確認、弾き込み [課題(復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）
15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（８）　課題の確認、仕上げ [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽的な演奏になるよう仕上げる（2～3h）

時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を授業外で毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】

受講学生への メッセージ	レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。

【3P1B205】ピアノキャリア実践Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・ 9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	音程、音階、和音、コードネーム、コード進行、調性、音楽用語、楽語などの基礎知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	変奏・モチーフ課題などの即興演奏や、メロディ＆ベースやコード＆ベースなどの伴奏づけにおいて、適切な演奏法を判断し演奏することができる。	◎
	技能	初見演奏、メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜から的確にとらえ、演奏することができる。 また、音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。	◎
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	ヤマハピアノ演奏グレード、ヤマハ指導グレード、カワイピアノ演奏グレード、カワイピアノ指導グレード等、各種グレード取得に向けた学修を中心に、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	-	10	-	40
実技試験	-	30	20	-	50
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	
参考書・教材	個々に合わせて提示します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業説明 各種グレードについての説明 今後の進め方を話し合う 音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて（１） [課題(準備)]　これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する（2h～3h）
2	音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて（２） ヤマハグレード（１）和音・伴奏づけ カワイグレード（１）音階・音楽用語・楽語 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識と、和音、伴奏づけ、音階などについて理解し、音楽用語・楽語を覚える（2h～3h）
3	ヤマハグレード（２）伴奏づけ・コード進行 カワイグレード（２）伴奏づけ（固有和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）・音楽用語・楽語・和音 楽典・聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、伴奏づけ、コード進行、和音などについて理解し、音楽用語・楽語を覚える（2h～3h）
4	ヤマハグレード（３）変奏課題・モチーフ課題 カワイグレード（３）伴奏づけ（固有和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）・音楽用語・楽語・音階と和音 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、変奏課題・モチーフ課題、伴奏づけ、音階と和音などについて理解し、音楽用語・楽語を覚える（2h～3h）
5	ヤマハグレード（４）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（４）伴奏づけ（固有和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）・音楽用語・楽語・コードネーム（３和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
6	ヤマハグレード（５）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（５）伴奏づけ（固有和音Ⅵ・Ⅱ・Ⅲ）・音楽用語・楽語・コードネーム（３和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
7	ヤマハグレード（６）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（６）伴奏づけ（固有和音Ⅵ・Ⅱ・Ⅲ）・音楽用語・楽語・コードネーム（７の和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
8	ヤマハグレード（７）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（７）伴奏づけ（固有和音Ⅵ・Ⅱ・Ⅲ）・音楽用語・楽語・コードネーム（７の和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
9	ヤマハグレード（８）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（８）伴奏づけ（借用和音：ドッペルドミナント）・音楽用語・楽語・コードネーム（その他の４和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
10	ヤマハグレード（９）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（９）伴奏づけ（借用和音：ドッペルドミナント）・音楽用語・楽語・コードネーム（その他の４和音） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
11	ヤマハグレード（10）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（10）伴奏づけ（借用和音：ドッペルドミナント）・音楽用語・楽語・楽典（音程の確認） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
12	ヤマハグレード（11）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（11）伴奏づけ（その他の借用和音：副属七の和音）・音楽用語・楽語・楽典（コードネームの確認） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
13	ヤマハグレード（12）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（12）伴奏づけ（その他の借用和音：副属七の和音）・音楽用語・楽語・楽典（和音記号の確認） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
14	ヤマハグレード（13）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（13）伴奏づけ（その他の借用和音：副属七の和音）・音楽用語・楽語・楽典（音階の確認） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
15	ヤマハグレード（14）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（14）伴奏づけ（まとめ・受験対策）・音楽用語・楽語・楽典（総合問題） 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　前期に学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解し、受験に向けて準備をする（2h～3h）

時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3P1S206】ピアノキャリア実践Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・ 9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	基礎的知識をはじめ、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	変奏・モチーフ課題などの即興演奏や、メロディ＆ベースやコード＆ベースなどの伴奏づけにおいて、適切な演奏法を判断し、音楽的に演奏することができる。	◎
	技能	初見演奏、メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜から的確にとらえ、演奏することができる。 また、音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。	◎
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	ヤマハピアノ演奏グレード、ヤマハ指導グレード、カワイピアノ演奏グレード、カワイピアノ指導グレード等、各種グレード取得に向けた学修を中心に、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	-	10	-	40
実技試験	-	30	20	-	50
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	
参考書・教材	個々に合わせて提示します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ヤマハグレード（1）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（1）伴奏づけ（転回形によるベース：Ⅰ・Ⅱの第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
2	ヤマハグレード（2）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（2）伴奏づけ（転回形によるベース：Ⅰ－Ⅳの第２転回形－Ⅰ・Ⅳの第２転回形→Ⅴの第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
3	ヤマハグレード（3）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（3）伴奏づけ（転回形によるベース：Ⅳの第１転回形・属七の和音の第１・２・３転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
4	ヤマハグレード（4）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（4）伴奏づけ（固有和音）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
5	ヤマハグレード（5）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（5）伴奏づけ（借用和音：ドッペルドミナント・Ⅱの第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
6	ヤマハグレード（6）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（6）伴奏づけ（借用和音：Ⅳマイナー・Ⅳマイナーの第２転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
7	ヤマハグレード（7）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（7）伴奏づけ（借用和音：副属七の和音の第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
8	ヤマハグレード（８）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（８）伴奏づけ（借用和音：副属七の和音の第１転回形・ドッペルドミナントの第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
9	ヤマハグレード（９）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（９）伴奏づけ（借用和音：副属七の和音の第１転回形・ドッペルドミナントの第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
10	ヤマハグレード（10）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（10）伴奏づけ（借用和音：副属七の和音の第１転回形）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
11	ヤマハグレード（11）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（11）伴奏づけ（復習・ディミニッシュ）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
12	ヤマハグレード（12）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（12）伴奏づけ（復習・ディミニッシュ）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
13	ヤマハグレード（13）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（13）伴奏づけ（転調）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
14	ヤマハグレード（14）即興演奏・初見演奏・メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法 カワイグレード（14）伴奏づけ（転調）・曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（2h～3h）
15	ヤマハグレード（15）まとめ・受験対策 カワイグレード（15）まとめ・受験対策 聴音／課題の確認 [課題(復習)]　後期に学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解し、受験に向けて準備をする（2h～3h）

時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3P1B209】ピアノ応用実践Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・ 9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	幅広く音楽的知識を修得し、理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	適切な演奏法を判断し演奏することができる。	◎
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。	◎
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。	△

授業内容	各々の必要とする内容や希望する内容を取り入れ、演奏力の向上を目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題	20	-	-	-	20
受講態度	10	30	30	10	80
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	課題は個々に適宜提示し、フィードバックとして評価後に講評を行います。受講態度は授業への取組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	
参考書・教材	個々に合わせて提示します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業説明 今後の進め方を話し合う 課題に取り組む [課題(準備)]　自分が必要とする内容や希望する内容を考え、提示できるようにしておく（2～3h）
2	演奏課題（１）　課題の確認、譜読みの確認 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、正確に譜読みを確認する。その他課題に取り組む（2～3h）
3	演奏課題（２）　課題の確認、テクニック練習 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する。その他課題に取り組む（2～3h）
4	演奏課題（３）　課題の確認、強弱を付けて弾く その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜に忠実に強弱を表現する。その他課題に取り組む（2～3h）
5	演奏課題（４）　課題の確認、テクニックの向上 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、更にテクニックを向上させる。その他課題に取り組む（2～3h）
6	演奏課題（５）　課題の確認、徐々にテンポを上げる その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、ふさわしいテンポで弾けるようにする。その他課題に取り組む（2～3h）
7	演奏課題（６）　課題の確認、音楽用語の理解 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽用語を理解して演奏する。その他課題に取り組む（2～3h）
8	演奏課題（７）　課題の確認、曲想を付ける その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、ふさわしい曲想を考え表現する。その他課題に取り組む（2～3h）
9	演奏課題（８）　課題の確認、音楽表現 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、豊かな音楽表現を身に付ける。その他課題に取り組む（2～3h）
10	演奏課題（９）　課題の確認、音色 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する。その他課題に取り組む（2～3h）
11	演奏課題（10）　課題の確認、表現の追求 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力を高める。その他課題に取り組む（2～3h）
12	演奏課題（11）課題の確認、演奏力の向上 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める。その他課題に取り組む（2～3h）
13	演奏課題（12）　課題の確認、暗譜 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする。その他課題に取り組む（2～3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	演奏課題（13）　課題の確認、テクニックと表現の調和 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、テクニックと表現が調和した演奏を目指す。その他課題に取り組む（2～3h）
15	演奏課題（14）課題の確認、仕上げ その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽性を高め仕上げる。その他課題に取り組む（2～3h）

時間外での学修	授業時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習・学修し、毎回の授業でレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	目標達成に向けて、積極的に受講してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3P1S210】ピアノ応用実践Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･P/MTコース必修		
実務家教員	横井　：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・ 9年		
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	幅広く音楽的知識を修得し、理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	適切な演奏法を判断し、音楽的に演奏することができる。	◎
	技能	基礎テクニックを発展し、演奏力を向上することができる。	◎
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。	△

授業内容	各々の必要とする内容や希望する内容を取り入れ、演奏力の向上を目指します。
観点別評価	

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題	20	-	-	-	20
受講態度	10	30	30	10	80
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	課題は個々に適宜提示し、フィードバックとして評価後に講評を行います。受講態度は授業への取組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	
参考書・教材	個々に合わせて提示します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	演奏課題（１）　休暇中の課題の確認 その他課題 [課題(予習・復習)]　休暇中の課題に取り組む（2～3h）
2	演奏課題（２）　課題の確認、譜読みの確認 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、正確に譜読みを確認する。その他課題に取り組む（2～3h）
3	演奏課題（３）　課題の確認、テクニック練習 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、テクニックを向上する。その他課題に取り組む（2～3h）
4	演奏課題（４）　課題の確認、強弱を付けて弾く その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽譜に忠実に強弱を表現する。その他課題に取り組む（2～3h）
5	演奏課題（５）　課題の確認、テクニックの向上 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、更にテクニックを向上させる。その他課題に取り組む（2～3h）
6	演奏課題（６）　課題の確認、徐々にテンポを上げる その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、ふさわしいテンポで弾けるようにする。その他課題に取り組む（2～3h）
7	演奏課題（７）　課題の確認、音楽用語の理解 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽用語を理解して演奏する。その他課題に取り組む（2～3h）
8	演奏課題（８）　課題の確認、曲想を付ける その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、ふさわしい曲想を考え表現する。その他課題に取り組む（2～3h）
9	演奏課題（９）　課題の確認、音楽表現 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、豊かな音楽表現を身に付ける。その他課題に取り組む（2～3h）
10	演奏課題（10）　課題の確認、音色 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する。その他課題に取り組む（2～3h）
11	演奏課題（11）　課題の確認、表現の追求 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力を高める。その他課題に取り組む（2～3h）
12	演奏課題（12）課題の確認、演奏力の向上 その他課題 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める。その他課題に取り組む（2～3h）
13	演奏課題（13）　課題の確認、暗譜 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする。その他課題に取り組む（2～3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	演奏課題（14）　課題の確認、テクニックと表現の調和 その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、テクニックと表現が調和した演奏を目指す。その他課題に取り組む（2～3h）
15	演奏課題（15）課題の確認、仕上げ その他課題 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、音楽性を高め仕上げる。その他課題に取り組む（2～3h）

時間外での学修	授業時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習・学修し、毎回の授業でレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	目標達成に向けて、積極的に受講してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【302B201】電子オルガンⅠ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	上園　弥生・松井　宏行		
資格・制限等	Or･Or/MTコース必修		
実務家教員	松井：　楽器メーカー専属インストラクター・17年／楽器店 音楽講師・13年 上園：　音楽講師・33年		
授業方法	個人レッスン		
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。	○
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。	◎
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。	◎
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。具体的には、前半で 得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半では その他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多種なジャンルへの演奏対応力を身につけ、新たな得意ジャンルを探索します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	20	25	25	-	70
準備・課題	5	5	5	-	15
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	25	30	30	15	100

評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだうちの２曲（得意ジャンル1曲／その他ジャンル1曲）の演奏発表で評価します。また、準備・課題は、毎週の練習の結果で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。
テキスト	これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲程度ピックアップし、第1週授業の際に 楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。(この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。) その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる(2～3h)
2	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1)　例. 演奏全体へのアドバイス（リズムの感じ方など） [準備・課題]全体的にアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
3	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2)　例. 鍵盤タッチ奏法 [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. 鍵盤タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
4	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3)　例. エクスプレッションペダル奏法 [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
5	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4)　例. まとめのアドバイス [準備・課題]アドバイスされた箇所を全体を復習し、演奏に反映する(2～3h)
6	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](1)　例. クラシック [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
7	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
8	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](1)　例. Jazz [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. リズム感）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
9	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
10	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](1)　例. ラテン [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. リズム感）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
11	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. タッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
12	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](1)　例. フュージョン／ニューエイジミュージック [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. 2nd Exp.ペダル奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
13	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所（例. ホリゾンタルタッチ奏法）を練習し、演奏に反映する(2～3h)
14	得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]得意ジャンルのレパートリー曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)
15	その他ジャンルからの選択曲 演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]その他ジャンルからの選択曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)

時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ曲の練習を継続しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】

受講学生へのメッセージ	皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥の深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【302S202】電子オルガンII	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	上園　弥生・松井　宏行		
資格・制限等	0r･0r/MTコース必修		
実務家教員	松井：　楽器メーカー専属インストラクター・17年／楽器店 音楽講師・13年 上園：　音楽講師・33年		
授業方法	個人レッスン		
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。	○
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。	◎
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。	◎
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、前半で 自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では 与えられた課題曲の演奏に取り組みます。どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	20	25	25	-	70
準備・課題	5	5	5	-	15
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	25	30	30	15	100

評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲1曲/課題曲1曲の演奏発表で、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。
テキスト	第１週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲（２曲程度）の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。その他に、個人の必要に応じて 授業開始後 テキストを案内する場合があります。
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	前半で取り組む自由曲の候補曲を確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)
2	自由曲における演奏追究（１）　曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
3	自由曲における演奏追究（２）　前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)
4	自由曲における演奏追究（３）　曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
5	自由曲における演奏追究（４）　前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)
6	自由曲における演奏追究（５）　曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
7	自由曲における演奏追究（６）　前回と同範囲 [準備・課題]後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)
8	課題曲における演奏追究（１）　曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
9	課題曲における演奏追究（２）　前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)
10	課題曲における演奏追究（３）　曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
11	課題曲における演奏追究（４）　前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)
12	課題曲における演奏追究（５）　曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)
13	課題曲における演奏追究（６）　前回と同範囲 [準備・課題]前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる(2～3h)
14	自由曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]自由曲の演奏全体を仕上げ、課題曲も仕上げてくる。(2～3h)
15	課題曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]課題曲のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる(2～3h)

時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を２曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 ・第８週～第１３週の間も、第１４週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】

受講学生へのメッセージ	自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という２つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。魅力的な演奏に仕上げると同時に、皆さんのレパートリーを増強していきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【302B205】電子オルガンキャリア実践Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	上園　弥生		
資格・制限等	Or･Or/MTコース必修		
実務家教員	指導グレード、エレクトーン演奏グレード５～３級試験官28年 音楽講師33年		
授業方法	個人レッスンです		
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽の特徴を理解できる	○
	思考・判断・表現	聴いている人に伝わる演奏ができる	◎
	技能	演奏するジャンルにふさわしい編曲が出来、表現を伴って演奏できる	◎
	関心・意欲・態度	わからない事に対して、質問、研究する事ができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	ヤマハの演奏グレードの項目である、即興演奏A,即興演奏B、初見演奏について学びます。色々なジャンルの演奏スタイルを理解し、変奏の方法、伴奏形など、まとめ方を実習しながら勉強していきます。 初見演奏のポイントを、理解し練習します。即興演奏を通じて、アレンジの技法などを学び、様々な場面において、対応できる力をつけます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	15	25	25	-	65
筆記試験	5	5	5	-	15
準備、課題	5	-	-	-	5
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	25	30	30	15	100

評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ課題の実習、筆記試験は、授業で取り組んだ内容で出題されます。 準備、課題は、毎週の練習の成果で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて紹介します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス。スケールとカデンツについて確認 「準備・課題」学んだ内容を復習する　（３～６h）
2	オルターネイティングベース 「準備・課題」学んだ内容を理解、復習し、実習する（５～７h）
3	課題実習、コードパターンで練習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
4	カウンターメロディについて 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
5	課題実習、コードパターンで練習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
6	2ビート実習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
7	ラテンのリズム 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
8	ワルツ実習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
9	メロディ変奏（フェイク）について 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
10	ブロック奏について 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
11	全体のまとめ方、構成　、イントロ、エンディングについて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
12	即興A課題実習　試験に向けて、 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
13	即興A課題実習　試験に向けて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
14	初見課題実習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
15	予見について　試験に向けて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）

時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。積極的に課題に取り組みましょう。（問題をたくさんやりましょう） 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：73～104時間】
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。（いつでもよいのできいて下さい） オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【302S206】電子オルガンキャリア実践Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	上園　弥生		
資格・制限等	Or･Or/MTコース必修		
実務家教員	指導グレード、エレクトーン演奏グレード５～３級試験官28年 音楽講師33年		
授業方法	個別レッスンです		
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽の特徴を理解している	○
	思考・判断・表現	聴いている人に伝わる演奏ができる	◎
	技能	課題に対し、ふさわしいジャンルが選択できる。表情豊かな編曲演奏ができる。	◎
	関心・意欲・態度	わからない事に対して。質問、研究することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽の総合的能力が要求される即興演奏の勉強をします。 フィーリング、演奏テクニック、正しい音の使い方の三つの要素が三位一体となり、良い演奏ができるように導きます。 要素の積み重ねだけでなく、音楽の流れの中でとらえられるように、努力しましょう。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	15	25	25	-	65
筆記試験	5	5	5	-	15
準備、課題	5	-	-	-	5
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	25	30	30	15	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。
参考書・教材	必要に応じて紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	夏休みの課題発表　　前期に学んだ項目の確認 「準備・課題」学んだ内容を復習する　（３～６h）
2	モティーフ即興について、ゼクエンツについて、 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
3	ゼクエンツについて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
4	形式について 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
5	中間部の作り方について 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
6	モティーフ即興実習、モチーフの発展について 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
7	クライマックスをどこにおくか 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
8	コード進行について 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
9	移調奏について 「準備・課題」学んだ内容を復習し、実習する（５～７h）
10	弾き歌い、伴奏付け、、、 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
11	即興B課題実習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
12	即興A課題実習　即興B課題実習　試験に向けて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
13	即興A課題実習　即興B課題実習　試験に向けて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
14	初見課題実習 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）
15	予見について　試験に向けて 「準備・課題」学んだ内容を理解し、実習する（５～７h）

時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。積極的に課題に取り組みましょう。（問題をたくさんやりましょう） スケールとカデンツは、確実に弾けるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：73～104時間】
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。（いつでもよいのできいて下さい） オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【302B209】電子オルガン応用実践Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	松井　宏行		
資格・制限等	0r･0r/MTコース必修		
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・17年／楽器店 音楽講師・13年		
授業方法	＜演習＞ ・種々の表現手法について知識を学習し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。		
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。	◎
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。	◎
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。	○
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	電子オルガンを用いた演奏や編曲に必要な応用的知識を習得していきます。具体的には、電子オルガンの操作／電子音の仕組み／エフェクトの知識／リズムの打ち込み制作などの知識を深め、繰り返し経験していくことで、操作手順や表現手法を身に付けていきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題制作	30	30	20	-	80
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	授業内で制作に取り組んだ楽曲を、最終的に課題として提出する。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で確認しコメントします。
テキスト	なし
参考書・教材	STAGEA ELS-02/C/X　パーフェクト・ガイド 基礎編 STAGEA ELS-02/C/X/ELC-02　パーフェクト・ガイド 応用編

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業の概要紹介～電子オルガンの操作習得（１）パネル上のボタン配置の把握 [課題(復習)] パネル上のボタンの操作・知識を復習する (2h)
2	電子オルガンの操作習得（２）ディスプレイセレクトについて [課題(復習)] ディスプレイセレクトの操作・知識を復習する (2h)
3	電子オルガンの操作習得（３）各種の詳細設定画面の概要把握 [課題(復習)] 各種の詳細設定画面の操作・知識を復習する (2h)
4	電子オルガンの知識（１）音源について [課題(復習)] 音源について知識を復習する (2h)
5	電子オルガンの操作習得（４）ボイスのセレクト～ボイスコンディションについて [課題(復習)] ボイスのセレクト～ボイスコンディションの操作・知識を復習する (2h)
6	電子オルガンの操作習得（５）リズムの基本操作 [課題(復習)] リズムの操作・知識を復習する (2h)
7	電子オルガンの知識（２）RPPの仕組みについて [課題(復習)] RPPの仕組みについて知識を復習する (2h)
8～10	電子オルガンの操作習得（６）リズムパターンの作成 [課題(復習)] リズムパターン作成の操作・知識を復習する (2h)
11	電子オルガンの知識（３）エフェクトについて：空間系・モジュレーション系 [課題(復習)] 空間系・モジュレーション系エフェクトの知識を復習する (2h)
12	電子オルガンの知識（４）エフェクトについて：歪み系・ダイナミクス系・その他 [課題(復習)] 歪み系・ダイナミクス系・その他のエフェクトの知識を復習する (2h)
13	電子オルガンの知識（５）ボイスエディットについて [課題(復習)] ボイスエディットについて知識を復習する (2h)
14	電子オルガンの操作習得（７）ボイスエディットの活用cc [課題(復習)] ボイスエディット活用の操作・知識を復習する (2h)
15	前期で習得した事項を活かしたトータル制作　授業時間外の課題も活かして取り組む [課題(他)] 実技試験に向けた制作練習(2h)

時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。 演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。 また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【302S210】電子オルガン応用実践Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	演習	30時間

教員	松井　宏行		
資格・制限等	0r･0r/MTコース必修		
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・17年／楽器店 音楽講師・13年		
授業方法	＜演習＞ ・種々の表現手法について知識を学習し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。		
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。	◎
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。	◎
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。	○
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	電子オルガンを用いた演奏や編曲に必要な応用的知識を習得していきます。具体的には、電子オルガンの操作／電子音の仕組み／エフェクトの知識／リズムの打ち込み制作などの知識を深め、繰り返し経験していくことで、操作手順や表現手法を身に付けていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題制作	30	30	20	-	80
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	授業内で制作に取り組んだ楽曲を、最終的に課題として提出する。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で確認しコメントします。
テキスト	なし
参考書・教材	STAGEA ELS-02/C/X　パーフェクト・ガイド 基礎編 STAGEA ELS-02/C/X/ELC-02　パーフェクト・ガイド 応用編

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業の概要紹介～精巧なサウンドメイク(1)電子オルガンにおける効果的な音作りについて [課題(復習)] 効果的な音作りについて知識を復習する (2h)
2	精巧なサウンドメイク(2)音作りのポイントについて [課題(復習)] 音作りのポイントについて知識を復習する (2h)
3	様々な楽器と奏法(1)アコースティック楽器を知る:管楽器 [課題(復習)] 管楽器について知識を復習する (2h)
4	様々な楽器と奏法(2)アコースティック楽器を知る:弦楽器・打楽器 [課題(復習)] 弦楽器・打楽器について知識を復習する (2h)
5	オーケストラ系のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (2h)
6	オーケストラ系のサウンドメイク(2)リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (2h)
7	オーケストラ系のサウンドメイク(3)制作実習 [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (2h)
8	ポピュラー系のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (2h)
9	ポピュラー系のサウンドメイク(2)リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (2h)
10	ポピュラー系のサウンドメイク(3)制作実習 [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (2h)
11	任意楽曲のサウンドメイク(1)ボイスの選択～組合せ　授業時間外の課題も活かして取り組む [課題(復習)] ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する (2h)
12	任意楽曲のサウンドメイク(2)リズム制作 [課題(復習)] リズム制作の操作・知識を復習する (2h)
13	任意楽曲のサウンドメイク(3)仕上げ [課題(復習)] ここまでの操作・知識を復習する (2h)
14	サウンドメイクの周辺知識(1)PAについて [課題(復習)] PAについて知識を復習する (2h)
15	サウンドメイクの周辺知識(2)DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について [課題(復習)] DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について知識を復習する (2h)

時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度

【3S3S201】Ｐ・Ｏｒアンサンブル Ⅰ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	横井　香織		
資格・制限等	P･Or･P/MT･Or/MTコース必修		
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・28年		
授業方法	演習を中心とした１組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。		
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。	△
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。	◎
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。	◎
	関心・意欲・態度	パートナーと充分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	ピアノ連弾や２台ピアノ、２台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けます。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	30	30	-	60
発表	-	5	5	-	10
受講態度	10	-	-	20	30
合　計(点)	10	35	35	20	100

評価の特記事項	実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。発表はピアノ、電子オルガンともに5回目の授業時に行います。フィードバグとして発表と実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。
テキスト	
参考書・教材	個々に合わせて選択します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1（横井）	授業説明（今後の授業の進め方等）、パートナー決め、選曲（ピアノ連弾曲） [課題(準備)]　ピアノ連弾の演奏会や動画などで、ピアノ連弾とはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h）
2（横井）	ピアノ連弾曲（１）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)]　見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h）
3（横井）	ピアノ連弾曲（２）課題の確認、合わせ [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく（1～2h）
4（横井）	ピアノ連弾曲（３）課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）
5（横井）	ピアノ連弾曲（４）課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）
6（横井）	ピアノ連弾曲（５）発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）
7（横井）	ピアノ連弾曲（６）課題の確認、仕上げ [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）
8（横井）	ピアノ連弾曲試験 [課題(復習)]　レッスンの復習をし、試験に向けて弾き込む（1～2h）
9（相原）	授業説明（今後の授業の進め方等）、パートナー決め、選曲（2台電子オルガン曲） [課題(準備)]　動画などで2台電子オルガンのアンサンブルとはどのようなものか観ておく 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h）
10（相原）	2台電子オルガン曲（１）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)]　見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h）
11（相原）	２台電子オルガン曲（２）課題の確認、合わせ 課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、パートナーと合わせて弾けるようにしておく（1～2h）
12（相原）	２台電子オルガン曲（３）課題の確認、バランスの確認 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）
13（相原）	２台電子オルガン曲（４）課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）
14（相原）	２台電子オルガン曲（５）発表、課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]　レッスンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）
15（相原）	２台電子オルガン曲（６）課題の確認、仕上げ [課題(復習)]　レッスンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら試験に向けて弾き込む（1～2h）

時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】

受講学生へのメッセージ	一人でも授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3S8B218】和声法Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	三輪　泰子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽教室講師・17年		
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。		
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。	◎
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。	○
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。	○
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	50	20	20	-	90
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	50	20	20	10	100

評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。
テキスト	『和声 理論と実習 Ⅰ』島岡　譲　他　音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057
参考書・教材	特にありません。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	和声学の予備知識 [課題]教科書を購入して、読んでみましょう。(1h)
2	基本位置3和音の配置 [課題]課題1.2を解いてみましょう。(1h)
3	基本位置3和音の配置 [課題]課題3.4を解いてみましょう。(1h)
4	基本位置3和音の配置 [課題]課題5（Ⅱ→Ⅴ）を解いてみましょう。(1h)
5	基本位置3和音の配置 [課題]課題6（Ⅴ→Ⅵ）を解いてみましょう。(1h)
6	和音設定の原理 [課題]課題7（T,D,S)を解いてみましょう。(1h)
7	和音設定の原理 [課題]課題8（複合カデンツ）を解いてみましょう。(1h)
8	和音設定の原理 [課題]課題9（終止形）を解いてみましょう。(1h)
9	各種の調（長調） [課題]課題10を解いてみましょう。(1h)
10	各種の調（短調） [課題]課題11を解いてみましょう。(1h)
11	各種の調（総合） [課題]課題12を解いてみましょう。(1h)
12	補充課題 [課題]3和音基本位置（1～3）を解いてみましょう。
13	補充課題 [課題]3和音基本位置（4～6）を解いてみましょう。(1h)
14	補充課題 [課題]3和音基本位置（7～10）を解いてみましょう。(1h)
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)

時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3S8S219】和声法Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	三輪　泰子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽教室講師・17年		
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。		
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。	◎
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。	○
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。	○
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	50	20	20	-	90
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	50	20	20	10	100

評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。
テキスト	『和声 理論と実習 Ⅰ』音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 「和声学Ⅰ」履修者は購入済
参考書・教材	特にありません。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	3和音の第１転回位置 [課題]課題13.14,15を解いてみましょう。(1h)
2	3和音の第１転回位置 [課題]課題16.17,18を解いてみましょう。(1h)
3	3和音の第１転回位置 [課題]課題19（１～４）を解いてみましょう。(1h)
4	3和音の第１転回位置 [課題]課題19（５～８）を解いてみましょう。(1h)
5	3和音の第１転回位置 [課題]課題19（９～１２）を解いてみましょう。(1h)
6	補充課題の実習（3和音の第１転回位置） [課題]課題（１～５）を解いてみましょう。(1h)
7	補充課題の実習（3和音の第１転回位置） [課題]課題（６～１０）を解いてみましょう。(1h)
8	3和音の第２転回位置 [課題]課題20,21,22、23を解いてみましょう。(1h)
9	3和音の第２転回位置 [課題]課題24（１～６）を解いてみましょう。(1h)
10	3和音の第２転回位置 [課題]課題24（７～１２）を解いてみましょう。(1h)
11	補充課題の実習（3和音の第２転回位置） [課題]課題（１～５）を解いてみましょう。(1h)
12	補充課題の実習（3和音の第２転回位置） [課題]課題（６～１０）を解いてみましょう。(1h)
13	補充課題の実習（３和音総合） [課題]課題（１～５）を解いてみましょう。(1h)
14	補充課題の実習（３和音総合） [課題]課題（６～１０）を解いてみましょう。(1h)
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)

時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3W5B201】吹奏楽実践演習Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育・服部　篤典・野々垣　行恵		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	鈴木：吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年 服部：オーケストラ２５年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間］
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B202】アンサンブルⅠ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	アンサンブルをするための基本的な表現方法や技術を講義によって学びます。そのうえで、同族楽器を中心にアンサンブルを編成します。それぞれの編成において、実技レッスン形式で行います。また、学外コンサート用楽曲を中心に、合奏を中心に基本的な技術と表現方法を学びます。ソロと指揮者、指導者を担当し、個々に演奏する側と演奏をまとめる側の役割を理解します。 最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。		
到達目標	知識・理解	アンサンブルを遂行するために必要な移調、和声、メロディの歌い方についての基本的な知識や方法を理解できる。合奏を成立させるための基本的な知識や技術を理解できる。ソリストとしての演奏法や心構えについての知識を修得する。	◎
	思考・判断・表現	小さなアンサンブルを通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を深く理解した上で、音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。指揮者、指導者、ソリスト、それぞれの立場での言動や表現方法を理解できる。	◎
	技能	スムースな移調ができるとともにハーモニーにおいて響きを同調させ、バランスをとることができる。メロディの歌い方を理解できる。個人の音作りと全体の音作りを結びつけて、音楽性を伴った演奏ができる。	◎
	関心・意欲・態度	感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	アンサンブルを通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。前期は特に移調や、和声感、メロディの歌い方等を学修した上で、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をします。また、合奏（小編成）を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけます。学外演奏会を実現する中で様々な役割を担い、演奏家及び指導者としての能力を学びます。ソロの楽曲にあった奏法を身につけると共にバンドをバックに演奏する経験を積みます。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験・実技試験	20	20	30	-	70
課題提出、受講態度	10	10	-	10	30
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、ソロ＆合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。
テキスト	随時プリント配付
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等、担当決め。 学外演奏のためのレパートリー① [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。移調の方法を予習しておく。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。　(2～4h)
2	移調の基礎知識と移調楽器について 学外演奏のためのレパートリー② [課題（復習）]本時学修内容（各移調楽器の特徴、調性）の復習及び、練習課題に取り組む。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。　(2～4h)
3	移調の方法と実践① 学外演奏のためのレパートリー③ [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。　(2～4h)
4	移調の方法と実践② 学外演奏のためのレパートリー④ [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。　(2～4h)
5	アンサンブル演習①（同属楽器）　編成の確認。選曲の検討。 ソロと吹奏楽演習①　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（準備、復習）]アンサンブル試験に向けての準備（選曲）。音並べ。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。　(2～4h)
6	合奏基礎（和声感と表現力①）和音を美しく響かせる。 ソロと吹奏楽演習②　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]平均律と純正律の理解を深める。第3音の音程について理解する。コラールの復習。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。　(2～4h)
7	合奏基礎（和声感と表現力②）　音程・ハーモニーのトレーニング ソロと吹奏楽演習③　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]和音からの音程の取り方に留意して、客観的に音程をチェックする。コラールの復習。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。　(2～4h)
8	アンサンブル演習②（同族楽器）アンサンブルレッスン① ソロと吹奏楽演習④　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。　(2～4h)

内容	
実施回	授業内容・目標
9	メロディの演奏法①　セレナーデ（J.ハイドン） ソロと吹奏楽演習⑤　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]フレージング、音の重みのかけ方、倚音、場面転換などの演奏法を理解し、自分の楽器で演奏できるようにする。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
10	メロディの演奏法②　アヴェ・マリア（J.S.バッハ/C.グノー）　歌の翼幻想曲（F.メンデルスゾーン/H.ステックメスト） ソロと吹奏楽演習⑥　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）]長い音のメロディの構成法や、さまざまなアーティキュレーションに対する対応の仕方を理解し、自分の楽器で演奏できるようにする。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
11	メロディの演奏法③　ジャズ＆ポップスにおけるメロディーの味つけ、独特な奏法 ソロと吹奏楽演習⑦　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） ［課題（復習）］ジャズやポップスのメロディの吹き方について、各リズムによる演奏の違いや、独特の演奏方法を理解する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
12	アンサンブル演習③（同族楽器）アンサンブルレッスン② ソロと吹奏楽演習⑧　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
13	アンサンブル演習④（同族楽器）アンサンブルレッスン③ ソロと吹奏楽演習⑨　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
14	アンサンブル演習⑤（同族楽器）アンサンブルレッスン④ ソロと吹奏楽演習⑩　本日の担当１組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現）及び通しレッスン [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。（2～4h）
15	前期まとめ　筆記試験　実技試験対策 ソロと吹奏楽演習⑪　通しレッスン　前期試験準備 [課題（復習）]前期筆記試験で間違えた箇所の復習。前期まとめ　実技試験対策。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)

時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについては、メンバー同士のコミュニケーションを取り、授業時間外で合わせの練習や研究の実践が必要です。ソロについても、個人の演奏能力向上とともに、バンドメンバーとのコミュニケーションを図ル必要があります。気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習・復習）と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3W5S203】吹奏楽実践演習Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育・服部　篤典・野々垣　行恵		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	鈴木：吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年 服部：オーケストラ２５年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。 初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、テンポの変化、ダイナミクスの変化に注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に時代背景や特徴的な表現記号を反映させながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に自分なりの音楽を考えながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間］
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S204】アンサンブルII	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	アンサンブルをするための基本的な表現方法や技術を講義によって学びます。その上で、異種楽器を中心にアンサンブルを編成します。それぞれの編成において、実技レッスン形式で行います。また、学外コンサート用楽曲を中心に、合奏を中心に基本的な技術と表現方法を学びます。ソロと指揮者、指導者を担当し、個々に演奏する側と演奏をまとめる側の役割を理解します。 最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。		
到達目標	知識・理解	アンサンブルを遂行するために必要なスケール、リズム（クラシック、ジャズ&ポップス）についての基本的な知識や方法を理解できる。合奏を成立させるための基本的な知識や技術を理解できる。ソリストとしての演奏法や心構えについての知識を修得する。	◎
	思考・判断・表現	小さなアンサンブルを通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を深く理解した上で、音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。指揮者、指導者、ソリスト、それぞれの立場での言動や表現方法を理解できる。	◎
	技能	全調スケール（長音階・短音階）ができるとともに各ジャンルにおけるリズムを正しく理解し、演奏することができる。個人の音作りと全体の音作りを結びつけて、音楽性を伴った演奏ができる。	◎
	関心・意欲・態度	感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	アンサンブルを通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。後期は特に全調スケールや、各ジャンルのリズムについて学修した上で、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をします。また、合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけます。学外演奏会を実現する中で様々な役割を担い、演奏家及び指導者としての能力を学びます。ソロの楽曲にあった奏法を身につけると共にバンドをバックに演奏する経験を積みます。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験・実技試験	20	20	30	-	70
課題提出、受講態度	10	10	-	10	30
合　計(点)	30	30	30	10	100

評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、ソロ＆合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。
テキスト	随時プリント配付
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等、担当決め 学外演奏のためのレパートリー① [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。全調スケールについて予習しておく。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2～4h)
2	基本的な奏法：スケール全調（長音階・短音階） 学外演奏のためのレパートリー② [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。スケール全調について復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2～4h)
3	アンサンブル演習①（異種楽器）　編成の確認。選曲の検討。 学外演奏のためのレパートリー③ [課題（準備、予習・復習）]アンサンブル試験に向けての準備（選曲）。音並べ。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。　(2～4h)
4	スケール全調（長音階）の確認。音程の取り方、円滑な指回しの確認。 学外演奏のためのレパートリー④ [課題（予習・復習）]事前に自分の音程の癖を把握しておく。苦手な調のスケール及び単音でのピッチ合わせの練習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2～4h)
5	アンサンブル演習②（異種楽器）アンサンブルレッスン① ソロと吹奏楽演習①　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
6	スケール全調（短音階）の確認。音程の取り方、円滑な指回しの確認。 ソロと吹奏楽演習②　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]苦手な調のスケール及び和音の中での音程を取る練習をする。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
7	アンサンブル演習③（異種楽器）アンサンブルレッスン② ソロと吹奏楽演習③　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
8	リズム感のトレーニング　ハンドクラッピングによる練習 ソロと吹奏楽演習④　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（復習）]４分音符、８分音符、16分音符、三連符のリズムを確実に体得するまで練習する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)

内容	
実施回	授業内容・目標
9	リズムの分析①　クラッシック　様々な音楽のリズム ソロと吹奏楽演習⑤　本日の担当３組のレッスン（正確な音とリズム、アーティキュレーション） [課題（準備・復習）]様々な音楽のリズムパターンを調べる。実践の曲に即したリズムのノリを体感するまで練習する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)
10	アンサンブル演習④（異種楽器）アンサンブルレッスン③ ソロと吹奏楽演習⑥　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
11	リズムの分析②　ジャズ＆ポップス・スタディ ソロと吹奏楽演習⑦　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習・予習）］ジャズ＆ポップスの様々なリズムやノリについて理解する。次回の実践のために十分なイメージトレーニングをする。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)
12	リズムの分析③　ジャズ＆ポップス・スタディ ソロと吹奏楽演習⑧　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）］ジャズ＆ポップスの様々なリズムやノリについて、CDを聞きながら、実際に自分の楽器で演奏してみる。確実にマスターするまで反復練習する。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)
13	アンサンブル演習⑤（異種楽器）アンサンブルレッスン④ ソロと吹奏楽演習⑨　本日の担当３組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現） [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
14	アンサンブル演習⑥（異種楽器）アンサンブルレッスン⑤ ソロと吹奏楽演習⑩　本日の担当１組のレッスン（フレージング、バランス、個性を活かした表現）及び通しレッスン [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。 (2～4h)
15	後期まとめ　筆記試験　実技試験対策 ソロと吹奏楽演習⑪　通しレッスン　後期試験準備 [課題（復習）]後期筆記試験で間違えた箇所の復習。後期まとめ。実技試験対策。レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2～4h)

時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについては、メンバー同士のコミュニケーションを取り、授業時間外で合わせの練習や研究の実践が必要です。ソロについても、個人の演奏能力向上とともに、バンドメンバーとのコミュニケーションを図る必要があります。気を抜かず取り組んでください。【気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習・復習）と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3W5B109】吹奏楽概論Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	長尾　洪基		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含　高等学校教員）・32年		
授業方法	音楽理論を含め吹奏楽で必要とされる理論を講義にて学びます。質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。		
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する	◎
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること	△
	技能	移調を即座にできること	○
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	一般的な音楽理論を含め、吹奏楽を指導、演奏する上での専攻楽器以外の各楽器の特徴を学び、移調を理解します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	50	10	20	-	80
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	50	10	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。
テキスト	なし
参考書・教材	その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス・授業の内容 [課題（予習）]音楽基礎知識の予習(4h)
2	楽譜・音符について [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
3	音程１ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
4	音程２ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
5	音程３ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
6	音階 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
7	近親調 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
8	楽語・楽器論木管楽器１　フルートについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
9	楽語・楽器論木管楽器２　オーボエ・ファゴットについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
10	楽語・楽器論木管楽器３　クラリネットについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
11	楽語・楽器論木管楽器４　サクソフォンについて [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
12	移調　基本編 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
13	移調　応用編１ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
14	移調　応用編２ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
15	前期まとめ・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)

時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。［この科目で求める望ましい学修外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	移調等の問題によって混乱しがちになりますが、たくさんの練習問題をこなしながら確実に理解していきましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3W5S110】吹奏楽概論Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	長尾　洪基		
資格・制限等	Wコース必修／W/MTコース選択必須		
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含　高等学校教員）・32年		
授業方法	音楽理論を含め、吹奏楽で必要とされる理論を講義にて学びます。質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。		
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する	◎
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること	△
	技能	移調を即座にできること	○
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽を指導・演奏する上で必要な各楽器の特徴を理解し、楽譜の読み方を学び、簡単な編曲を行います。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	50	10	20	-	80
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	50	10	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。
テキスト	なし
参考書・教材	その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	前期の復習 [課題（予習）]音楽基礎知識の予習(4h)
2	楽器論金管楽器１　トランペット [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
3	楽器論金管楽器２　ホルン [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
4	楽器論金管楽器３　トロンボーン [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
5	楽器論金管楽器４　ユーフォニアム [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
6	楽器論金管楽器５　テューバ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
7	コントラバスの構造・特徴について [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
8	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(1) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
9	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(2) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
10	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(3) [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
11	打楽器について（種類・音域・楽譜の読み方） [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
12	打楽器の楽譜の書き方・作成（ドラムマーチ） [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
13	吹奏楽（管打楽器アンサンブル）の楽譜の書き方・作成１ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
14	吹奏楽（管打楽器アンサンブル）の楽譜の書き方・作成２ [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)
15	後期まとめ・筆記試験対策 [課題（復習）]本時学修内容の復習(4h)

時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	各自作成した楽譜を提出します。それぞれの楽器についての知識を再確認しておきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5B213】演奏会研究Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	Wコース必修		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行ないます。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振返り調査を行います。		
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べた上で、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、分野別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。	◎
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。	◎
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力を磨き、発表を通じて、関係職種において発揮できるようなコミュニケーション能力を身につける。.	○
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。前期で１～２公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総括的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドヴァイスできる力を養成します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
資料提出・発表	20	20	20	20	80
小テスト	10	10	-	-	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の３分の１以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表後に個々にアドヴァイスをメールにて送付します。また、確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、振り返り調査は、まとめて提示し総括します。
テキスト	なし
参考書・教材	その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス、この授業で学ぶこと。研究の仕方、授業内容、到達目標等。 [課題（準備）]シラバスの熟読。演奏会についての考察課題。演奏会研究冒頭調査。 (1～2h)
2	演奏会についての考察（第１回授業振り返りと発展） プレゼンテーション資料作成の仕方。発表の仕方。 「世界のオーケストラ研究」発表についての解説および、調査・発表対象の選択。 [課題（準備）]「世界のオーケストラ研究」発表準備・資料作成。(5～6h)
3	「世界のオーケストラ研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
4	「世界のオーケストラ研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
5	「世界のオーケストラ研究」についてのプレゼンテーション③ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
6	「世界のオーケストラ研究」についてのプレゼンテーション④ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
7	「世界のオーケストラ研究」についてのプレゼンテーション⑤及び５回分の質疑応答、ディスカッション。 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3～4h)

内容	
実施回	授業内容・目標
8	「世界のオーケストラ研究」発表振り返り調査および、「世界のオーケストラ研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備、資料作成。 [課題（復習・準備）] 「世界のオーケストラ研究」についての確認テスト復習。自分の発表の振り返りと他の発表の良い点、改善点を比較し、自己の今後の発表・資料作りに活かす。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(2～3h)
9	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
10	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
11	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
12	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション④ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
13	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション⑤及び５回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(2～3h)
14	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題（復習・準備）] 「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。自分の発表の振り返りと他の発表の良い点、改善点を比較し、自己の今後の発表・資料作りに活かす。(2～3h)
15	前期全体のまとめ。後期に向けてのガイダンス。第２６回ウインドアンサンブル定期演奏会について　意義・目的・プログラムについて [課題（復習・準備）] 前期の研究をまとめ、自分たちの定期演奏会に活かしていく。(2～3h)

時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：25～40時間］
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5S214】演奏会研究Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	Wコース必修		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行ないます。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振返り調査を行います。		
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べた上で、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、分野別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。	◎
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。	◎
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力を磨き、発表を通じて、関係職種において発揮できるようなコミュニケーション能力を身につける。.	○
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。後期で１～２公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総括的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドヴァイスできる力を養成します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
資料提出・発表	20	20	20	20	80
小テスト	10	10	-	-	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の３分の１以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表後に個々にアドヴァイスをメールにて送付します。また、確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、振り返り調査は、まとめて提示し総括します。
テキスト	なし
参考書・教材	その都度配布

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業日程の説明、鑑賞演奏会分野別研究・選択演奏会研究発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 第２６回ウインドアンサンブル定期演奏会に関する考察 [課題（準備・復習）]第２６回定期演奏会に関する考察のまとめ、課題。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(2～3h)
2	第２６回ウインドアンサンブル定期演奏会について①情宣活動について（チラシ・案内・広報など） [課題（復習・準備）] 第２６回定期演奏会「情宣活動」に関する復習、考察。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3～4h)
3	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
4	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
5	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
6	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション④ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
7	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション⑤及び５回分の質疑応答、ディスカッション。 「選択演奏会研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(3～4h)

内容	
実施回	授業内容・目標
8	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「選択演奏会研究」発表準備、資料作成。 [課題（復習・準備）]「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。自分の発表の振り返りと他の発表の良い点、改善点を比較し、自己の今後の発表・資料作りに活かす。「選択演奏会」発表準備・資料作成。(2～3h)
9	第２６回ウインドアンサンブル定期演奏会について②プログラム・演出について（タイムテーブル・ロビーコンサート・舞台演出など） [課題（復習・準備）]第２６回定期演奏会「プログラム・演出について」に関する復習。「選択演奏会別研究」発表準備・資料作成。(3～4h)
10	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
11	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
12	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション③ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
13	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション④ 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1～2h)
14	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション⑤及び５回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題（復習・準備）]本日の各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(2～3h)
15	「選択演奏会研究」発表振り返り調査および、「選択演奏会研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。後期全体のまとめ。 [課題（復習・準備）]「選択演奏会研究」についての確認テスト復習。自分の発表の振り返りと他の発表の良い点、改善点を比較し、自己の今後の発表・資料作りに活かす。(2～3h)

時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：25～40時間］
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3R6B301】リペア基礎(木管) Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	3単位	必修	演習	45時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なリペア技術、基礎的な構造知識が身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。	△
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理個所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。	◎
	技能	各木管楽器の修理個所に的確な技能を持って対応する。	◎
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取扱い方を学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	10	-	-	-	10
実技試験	-	30	50	-	80
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	10	30	50	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [課題(復習)]工具の使い方、名称の復習（1h）
2	工具の加工、商品知識 [課題(復習)]加工技術の復習（3h）
3	クラリネットの初歩実習　　キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（2h）
4	クラリネットの基礎実習①　　連絡バランス調整及び、タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（4h）
5	フルート初歩実習　　キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（2h）
6	フルートの基礎実習①　　タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（4h）
7	フルートの基礎実習②　　タンポ交換、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換（4h）
8	サクソフォンの初歩実習　　キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についても説明を行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立（2h）
9	サクソフォンの基礎実習①　　タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換（4h）
10	サクソフォンの基礎実習②　　タンポ交換手順、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換（4h）
11	クラリネットの基礎実習②　　ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [課題(復習)]学んだジョイントコルク交換（3h）
12	クラリネットの基礎実習③　　全体調整（バネ圧、開き等の確認） [課題(復習)]学んだバランス調整（4h）
13	フルートの基礎実習③　　ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [課題(復習)]学んだヘッドコルク交換、反射板位置（3h）
14	フルートの基礎実習④　　全体調整（バネ圧、開き、アソビの取り方等） [課題(復習)]学んだバランス調整（4h）
15	前期木管楽器復習演習　　木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。（1h）

時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]

受講学生への メッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーズーリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週月曜日授業後　F101教室で行います。

【3R6S302】リペア基礎(木管)Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	3単位	必修	演習	45時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリントなどを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修し問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキイシステムの違い（特別講義で解説します）を理解する。	△
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる。	◎
	技能	各木管楽器のリペア箇所に適切な技能を持って対応する。	◎
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大して リペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。 前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	10	-	-	-	10
実技試験	-	30	50	-	80
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	10	30	50	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	サクソフォンの基礎実習③　　ネックコルク交換 [課題(復習)]学んだネックコルク交換（3h）
2	サクソフォンの基礎実習④　　全体調整（テーブルキイ）タンポ交換 [課題(復習)]学んだバランス調整（3h）
3	クラリネットの総合実習①　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
4	クラリネットの総合実習②　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
5	フルートの総合実習①　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
6	フルートの総合実習②　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
7	サクソフォンの総合実習①　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
8	サクソフォンの総合実習②　　タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整（3h）
9	クラリネットの総合実習③　　全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
10	クラリネットの総合実習④　　全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
11	フルートの総合実習③　　全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
12	フルートの総合実習④　　全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
13	サクソフォンの総合実習③　　部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
14	サクソフォンの総合実習④　　部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習（3h）
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [課題(復習)]総合的な復習（3h）

時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは、授業後　F101教室で行います。

【3R6B303】リペア基礎(金管) Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	3単位	必修	演習	120時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年　　松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身につく授業にしていきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することができる。	△
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断する。	◎
	技能	各金管楽器の修理箇所に的確な技能を持って対応する。	◎
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心、興味を持ち、自らが率先して学修することができる。	△
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱いを学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	10	-	-	-	10
実技試験	-	30	50	-	80
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	10	30	50	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	工具製作 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
2	トランペットの初歩実習　基礎知識、取り扱い方法、分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
3	トランペット基礎実習①　ピストン調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
4	トランペット基礎実習②　抜き差し管調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
5	ハンダ付け（溶接）初歩実習　ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
6	ハンダ付け（溶接）初歩実習　ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
7	ホルンの初歩実習　基礎知識、取り扱い方法、使用工具の説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
8	ホルンの基礎実習①　ロータリー糸（紐）交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
9	ホルンの基礎実習②　ロータリー調整、使用工具説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
10	トロンボーンの初歩実習　基礎知識、取り扱い方法、使用工具等説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
11	トロンボーンの基礎実習①　ウォーターキイ分解組み立て、コルク交換、スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
12	トロンボーンの基礎実習②　スライド曲がり修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
13	ハンダ付け基礎実習①　ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
14	ハンダ付け基礎実習②　ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
15	前期金管楽器基礎復習　金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）

時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]

受講学生への メッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーズーリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、授業後　F101教室で行います。

【3R6S304】リペア基礎(金管)Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	3単位	必修	演習	120時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年　松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布物、DVD、各社カタログ等を採り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して、総合的なリペア技術を学修します。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違いが理解できる。（特別講義等で解説します。）	△
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考えて作業ができる。	◎
	技能	各楽器のリペア箇所に、適切な技能を持って対処ができる。	◎
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関しての情報、他社系のリペア手法など興味を持って、自らが率先して学修ができる。	△
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期で学んだ金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の基礎的な実習をさらに拡大して、リペアを行うことによって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。 前期で、工具等の使用方法を理解したと思いますが、より安全に作業を行うにはどうしたら良いかを考えながら学んでください。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	10	-	-	-	10
実技試験	-	30	50	-	80
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	10	30	50	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	トランペット基礎実習③　抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
2	トランペット基礎実習③　抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
3	トランペット基礎実習④　ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
4	トランペット基礎実習④　ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
5	ホルンの基礎実習③　ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
6	ホルンの基礎実習③　ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
7	ホルンの基礎実習④　レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
8	ホルンの基礎実習④　レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
9	トロンボーンの基礎実習③　スライド調整、ウォーターキイコルク交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
10	トロンボーンの基礎実習③　スライド調整・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
11	金管楽器基礎実習①　マウスピース固着・マウスピースシャンク変形修正・抜き差し管固着修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
12	トランペットの基礎実習⑤　ピストン固着修正・ハンダ付け 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
13	ホルンの基礎実習⑤　ロータリー固着修正・ロータリー糸（紐）交換・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
14	トロンボーンの基礎実習④　スライド調整・ウォーターキイコルク交換・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）
15	ホルンの基礎実習⑥　ロータリー調整・ロータリー糸（紐）交換・レバー位置修正・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）

時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは、授業後　F101教室で行います。

【3R6B305】リペア基礎(総合)Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	4単位	必修	演習	120時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に付け問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。	◎
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。	△
	技能	各管楽器の修理箇所に的確な技能を持って対応する。	◎
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能を習得する。 正確性、効率性、商品知識や接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	50	10	-	-	60
実技試験	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	50	10	30	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	工具の加工①　　ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け（4h）
2	工具の加工②　　ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け（4h）
3	管楽器基礎知識①　　メンテナンス用品の取り扱い他　（DVD使用） [課題(復習)]学んだ取り扱い方法（4h）
4	管楽器基礎知識①　　メンテナンス用品の取り扱い他　（DVD使用） [課題(復習)]学んだ取り扱い（4h）
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容（4h）
6	管楽器製造方法①　　使用材料や加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の材料、加工法（4h）
7	管楽器製造方法②　　使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の表面処理（4h）
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容（4h）
9	管楽器製造方法③　　使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の製造工程（4h）
10	管楽器以外の楽器類 [課題(復習)]学んだ各種楽器の種類（4h）
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容（4h）
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだ特別講義内容（4h）
13	楽器店での管楽器リペア①　　先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ現場での修理（4h）
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア②　　先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ楽器店における修理（4h）
15	前期総合基礎演習 [課題(復習)]学んだ修理（4h）

時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。 また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。 特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からないことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 オフィスアワーは授業後　F101教室で行います。

【3R6S306】リペア基礎(総合)Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	4単位	必修	演習	120時間

教員	松永　幸宏・松岡　龍		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年		
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等を身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。		
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事ができる。	◎
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。	△
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。	◎
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学修する。 安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身につける、基本的な知識や技能の習得。 正確性、効率性、商品知識、接遇など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。 実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講話を行っていきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	50	10	-	-	60
実技試験	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	50	10	30	10	100

評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト
参考書・教材	必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	管楽器専門知識① [課題(復習)]学んだ専門知識（4h）
2	管楽器専門知識② [課題(復習)]学んだ専門知識（4h）
3	管楽器専門知識③ [課題(復習)]学んだ専門知識（4h）
4	主要楽器メーカー講習① [課題(復習)]学んだメーカー講習内容（4h）
5	管楽器専門知識④ [課題(復習)]学んだ専門知識（4h）
6	管楽器専門知識⑤ [課題(復習)]学んだ専門知識（4h）
7	特殊工具を使用するリペア [課題(復習)]学んだ特殊工具使用方法（4h）
8	総合確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容（4h）
9	楽器店での管楽器リペア② [課題(復習)]学んだリペア業務の内容（4h）
10	楽器店での管楽器リペア③ [課題(復習)]学んだ店頭でのリペア業務（4h）
11	楽器店での管楽器リペア④ [課題(復習)]学んだ学校販売でのリペア業務（4h）
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだメーカー特別講義内容（4h）
13	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理（4h）
14	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理（4h）
15	後期総合基礎復習 [課題(復習)]時間短縮及び苦手修理（4h）

時間外での学修	繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけ、2年次への準備をしっかりして下さい。 オフィスアワーは授業後　F101教室で行います。

【3R6B225】楽器奏法Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	佐溝　佳奈		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員			
授業方法	各楽器に分かれ５～６週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。		
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。(△)	△
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。(△)	△
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。(◎)	◎
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。(○)	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	-	60	-	60
各楽器の修得力	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	10	10	60	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行う。
テキスト	
参考書・教材	楽譜等その都度配布。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)
2	楽器1レッスン1:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
3	楽器1レッスン2:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
4	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
5	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
6	楽器2レッスン1:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
7	楽器2レッスン2:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
8	楽器2レッスン3:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
9	楽器2レッスン4:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) スケール、簡単な楽曲、実技試験　注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（予習）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験　注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の復習(1～2h)
14	不得意楽器のレッスン1　学期末実技試験対策　　[課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)
15	不得意楽器のレッスン2　学期末実技試験対策　　[課題（復習・準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 ［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：１５～３０時間］
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかり聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6S226】楽器奏法Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	佐溝　佳奈		
資格・制限等	Rコース必修		
実務家教員			
授業方法	楽器に分かれ５～６週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。		
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。(△)	△
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。(△)	△
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。(◎)	◎
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。(○)	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	-	60	-	60
各楽器の修得力	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	10	10	60	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスを行う。
テキスト	
参考書・教材	楽譜等その都度配布。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	楽器4レッスン1:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・復習]レッスン楽器の練習(2h～3h)
2	楽器4レッスン2:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・復習]レッスン楽器の練習(2h～3h)
3	楽器4レッスン3:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
4	楽器4レッスン4:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
5	楽器5レッスン1:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
6	楽器5レッスン2:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
7	楽器5レッスン3:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法（ロングトーン、スケール等）注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
8	楽器5レッスン4:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) スケール、簡単な楽曲、実技試験　注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
9	楽器6レッスン1:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
10	楽器6レッスン2:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法（音の出し方、ロングトーン等）注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
11	楽器6レッスン3:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法（ロングトーン、スケール等）注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
12	楽器6レッスン4:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) スケール、簡単な楽曲、実技試験　注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
13	後期不得意楽器のレッスン1　学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
14	後期不得意楽器のレッスン2　学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
15	後期不得意楽器のレッスン3　学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：１５～３０時間］
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかり聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6B229】楽器研究Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	木下　紘治郎		
資格・制限等	W・R・W/MTコース必修		
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・３５年		
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、ＤＶＤ、ＣＤ等を使用します。一方的で受け身な授業にならないように受講学生の発言、発表を求めることがあります。例えば高校の吹奏楽活動等で担当した楽器に関する情報（担当動機、使用メーカー等）を発表してもらい全員で共有します。		
到達目標	知識・理解	管打楽器の歴史、発音原理、構造、材質等の基礎知識、各楽器ごとの特徴を理解できる。日本のスクールバンドで使用される国内外のメーカーを知り、その売れ筋商品を知ることができる。◎	◎
	思考・判断・表現	営業活動や楽器指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることができる。レポート（報告書）作成の基本を修得できる。○	○
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができる。△	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	・楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。 ・お客様に信頼され、支持され、地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	80	10	-	-	90
レポート	4	5	-	1	10
合　計(点)	84	15	-	1	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	『管楽器価格一覧表２０２２年度版』株式会社ミュージックトレード社(1,100円) 『打楽器価格一覧表２０２２年度版』株式会社ミュージックトレード社(990円)
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。　管・打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　「この授業で学ぶこと」プレイング・セールス・エンジニアについて。「音楽産業と楽器産業について」（楽器産業の業態、必要とされる知識。そこで働くこととは） ［課題（復習）］学んだことの復習。プレイング・セールス・エンジニアについて理解を深めること。(1h)
2	管楽器の基礎知識(1)楽器の条件、歴史、発音原理による分類、楽器の分類と種類、構造、管体材料について。 ［課題（復習）］学んだことの復習。発音原理は実際にマウスピース等で吹いてみること。（1h）
3	管楽器の基礎知識（2）バルブとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズム、調性について。スクールバンドで使用される国内外のメーカー。 [課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。各自の専門楽器以外は学校備品、学生同士の楽器で確認すること。次回から楽器別で行う。事前にカタログ等で研究すること。ＤＶＤ，ＣＤ，ＹｏｕＴｕｂｅ等の音源・動画で楽器本体、演奏法等を確認すること。（フルートから始める）(1h)
4	フルート　各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて。 ［課題（復習／予習）］学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。(1h)
5	クラリネット　各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、音域の名称と特徴、リード・リガチャー・マウスピースの３点セットの重要性について、メーカーについて。 [課題(復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること。（1h）　※提出課題 「クラリネット（B♭管）の研究（メーカーの特徴、各機種価格対比等）・メーカーはヤマハ、セルマー、クランポンの3社とする。★６月１７日（金）授業日提出。
6	サクソフォン　各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック（ボーカル）、リード、メーカーについて。 ［課題（復習／予習）］学んだ事の復習と予習(1h)
7	オーボエ　各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。 ［課題（復習／予習）］学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること(1h)
8	ファゴット（バスーン）　各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、ボーカル、メーカーについて。 [課題（復習／予習）］学んだことの復習と予習。実際に楽器等で確認すること（1h）
9	トランペット　各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、トリガー、ベル、メーカーについて。 [課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認する事（1h）
10	ホルン　各国での名称、歴史、調性による分類、管体材料、２つの業界スタンダードタイプによる分類、デタッチャブル、ゲシュトップ、ベル、メーカーについて。 ［課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。特にフルダブルの構造(1h)
11	トロンボーン　各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、ロータリーバルブの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。特にロータリーバルブの種類を確認すること。(1h)
12	ユーフォニアム＆チューバ　各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、管の巻き方、コンペンセイティングシステム、メーカーについて。 [課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。（特にコンペンセイティングシステムについて）(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	サクソルン族　歴史、種類、管体材料、コルネット、アルトホルン、バリトン、メーカーについて。 イギリス式金管バンド編成について。 [課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。実際に楽器で確認すること。(1h) （金管バンドに興味を持つこと）
14	マーチングブラス　歴史、特徴、種類、コンバーチブルモデル、メーカーについて。 ［課題（復習）］学んだことの復習。ＤＶＤ等で編成と実際の活用状況を確認すること。次回、前期授業のまとめを行う。前期実施の授業資料の内容を確認し持参すること。(1h)
15	前期のまとめ　※夏期休暇課題提示「①吹奏楽、マーチングコンクール視察。②楽器店訪問」 ９月３０日（金）後期第一回目授業日提出。 ［課題（復習）］(1h) ・次回「前期定期試験（筆記試験）」を実施する。準備を怠らないように。

時間外での学修	最新情報を入手する習慣をつけましょう。カタログ、専門誌、インターネットなどで研究し、楽器本体は学生同士で研究しあいましょう。学生時代の特権です。【この科目での望ましい授業外での総学修時間：１５時間】
受講学生へのメッセージ	全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識は楽器業界で仕事する上で必ず活かされます。 全ての楽器のオールマイティーな知識が求められます。オフィスアワー：質問等は授業前は非常勤講師控室、授業後は教室で対応します。

【3R6S230】楽器研究Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	木下　紘治郎		
資格・制限等	W・Rコース必修／W/MTコース選択必須		
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・３５年		
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、ＤＶＤ、ＣＤを活用します。 一方的で受け身な授業にならないように、受講学生に発言、発表を求めることがあります。例えば中・高校で担当した楽器についての情報（担当動機、使用メーカー等）を発表し全員で共有します。		
到達目標	知識・理解	打楽器、和楽器、教育楽器、楽器店で販売している楽器等について学び知識を深めることが出来る。特に、教育楽器は教育上の特性等、学校教育との関連を理解できる。◎	◎
	思考・判断・表現	営業活動、楽器指導で十分な理解を得られる伝え方を思考し、工夫し表現できる。レポート（報告書）作成の基本を修得できる。○	○
	関心・意欲・態度	楽器本体及び関連商品の幅広い知識と情報に敏感であり、よりプロフェッショナルなレベルに近づける。△	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期に引き続き楽器知識について学びます。打楽器類（コンサート用、マーチング用、音板打楽器） 和楽器（太鼓類、笛類、弦楽器類）、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、教育機器） 楽器店で扱われる楽器（鍵盤楽器、弦楽器、ＬＭ楽器、民族楽器、管打楽器関連商品）の知識、チューナー、メトロノームのスクールバンドに於ける活用研究。関連知識として吹奏楽の歴史を学びます。 吹奏楽等で使用される管楽器・打楽器以外の楽器群は楽器店に勤務し担当する可能性の大きい学校販売担当者、店舗担当者に求められる大切な知識です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	75	5	-	-	80
レポート	8	10	-	2	20
合　計(点)	83	15	-	2	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。打楽器カタログ、管楽器・打楽器価格一覧表２０２２年度版を使用します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	打楽器(1)　コンサート打楽器の分類　①ティンパニ(各国での名称、歴史、種類、構造、サイズ、セッティング、チューニングインジケーター、メーカー)について。 ［課題（復習／予習)]学んだことの復習と予習。楽器本体（学校備品）で確認しておくこと。 各楽器に関しては前期同様授業前にカタログ等で予習しておくこと。(1h)
2	打楽器(2)　スネアドラム、バスドラム、シンバル、チャイム他(各国での名称、歴史、種類、サイズ、チューニング、構造、材質、メーカー)について。 [課題（復習/予習）]学んだことの復習と予習。楽器本体（学校備品）で確認しておくこと。(1h)
3	打楽器(3)　音板打楽器(概論、種類、各部の名称、材質、温度・湿度とピッチの関係、取り扱いの注意点、メーカー）　について。 [課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。楽器本体（学校備品）で確認すること。(1h)
4	打楽器(4)　マーチングパーカッション(概論、種類、構造、編成、チューニング、アクセサリー、メーカー)について。 [課題（復習）]学んだことの復習と予習。楽器本体、カタログ、ＤＶＤで確認すること。（楽器本体は学校備品）で確認すること。（1h)
5	和楽器(1)　邦楽と和楽器について、歴史、種類と分類、奏法、各流派、　①和太鼓　②管楽器類１(尺八)について。”なぜ和楽器の知識が必要とされるのか” [課題（復習）]学んだことの復習。ＤＶＤ等で確認すること。(1h)
6	和楽器(2)　管楽器類２（篠笛、竜笛、能管、笙、篳篥）「能楽、雅楽について」 [課題（復習）]学んだことの復習。ＤＶＤ等で確認すること。(1h)
7	和楽器(3)　弦楽器(三味線、箏)について。調弦について、使用される音楽について。 [課題（復習）]学んだことの復習。和楽器の知識をまとめておくこと。(1h)
8	教育楽器(1)　リコーダー(各国での名称、歴史、種類、材質、バロック式とジャーマン式、教育的特性、生涯学習とリコーダー、奏法、メーカー）について。 [課題（復習）]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。(1h)
9	教育楽器(2)　鍵盤ハーモニカ(歴史、種類（鍵盤数）、教育的特性、生涯学習と鍵盤ハーモニカ、メーカー（独自の商標名)について。 [課題（復習）]学んだことの復習。楽器本体で確認すること。（1h)
10	教育機器　（種類、電子式指導用オルガン・ピアノの教育的特性と機能)について。メーカーについて。 ［課題（復習／予習）]学んだことの復習と予習。総合楽器店で扱われる楽器類をカタログ等で確認しておくこと。（1h)
11	総合楽器店で扱われる楽器類(鍵盤楽器、弦楽器、ＬＭ楽器、民族楽器、楽器関連商品)について、メーカーについて。 [課題（復習）]学んだことの復習。楽器本体、展示方法を楽器店で確認することを勧める。(1h)
12	楽器関連商品(チューナーとメトロノームの吹奏楽活動での効果的な活用研究)について。 [課題（復習）]学んだことの復習。吹奏楽活動での効果的な活用法を考える事。(1h)
13	日本における吹奏楽の歴史(日本の吹奏楽の始まりから現在、そして将来を展望する) [課題（復習/予習）]学んだことの復習と予習。後期実施授業資料を確認し次回持参すること。(1h)
14	後期のまとめ。後期授業内容を振り返る。 [課題（復習）]学んだことの復習。(1h)。返却された夏期休暇課題を読み直し次回持参すること。

内容	
実施回	授業内容・目標
15	夏期休暇課題のまとめ。コンクール視察、楽器店訪問で気付いた事と学んだこと。新しい視点で観察した現場での感想、情報を整理し、これからに繋げる。 [課題（復習）]学んだことの復習。(1h) 来週、後期定期試験（筆記試験）を実施する。準備を怠らないこと。

時間外での学修	楽器店を訪問して商品の展示方法等を観察したり、新しい情報を入手しましょう。必ず客として訪問してください。お店の方々と親しくなる事で、多くの知識、情報を得ることができます。学ばせていただく姿勢が大切です。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	楽器のオールマイティーを目指しましょう。興味と関心、好奇心が最大の資質です。カタログや専門誌、インターネット等で確認し、知識を確実にしましょう。学校備品、友人の楽器及びコンクール、コンサート等で実際に楽器を観察することを勧めます。オフィスアワー：質問等は授業前は非常勤講師控室、授業後は教室で対応します。

【3S9B101】音楽総合特講Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	服部　篤典・菅田　文子・鈴木　孝育・横井　香織・松永　幸宏		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。、他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなど行う場面もあります。		
到達目標	知識・理解	音楽に関する分野の学びとともに社会人に求められる知識についても理解できる。	◎
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。	◎
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につける。	○
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができ、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○

授業内容	将来の就職に向けて、音楽総合学科卒業生、教員の他外部講師を招いて職業についての講義を行う。具体的な進路について自分で調べ、講師やクラス内で意見交換をすることにより、今後どのような学習をすべきかを明確にすることが目的である。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
学修記録ノート	30	30	25	-	85
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	30	30	25	15	100

評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の３分の１以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による
テキスト	
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、各コースの可能な職業、本学卒業生の進路についての説明（学科） [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
2	将来の職業についてグループワーク（学科） [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
3	職業を知る（１）公務員①自衛隊 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
4	職業を知る（２）公務員①警察 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
5	職業を知る（３）公務員①消防 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
6	職業を知る（４）職業演奏家 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
7	職業を知る（５）講師①ピアノ、電子オルガン [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
8	職業を知る（６）講師②管楽器 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
9	職業を知る（７）楽器店①営業、販売、リペア [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
10	職業を知る（８）楽器店②音楽教室、その他 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
11	職業を知る（９）製造、メーカー、卸し [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
12	職業を知る（１０）音楽療法：福祉施設、病院等で働く音楽療法士について [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
13	職業を知る（１１）一般職：吹奏楽団を有する企業、その他 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	レポート作成：自分のなりたい職業について調べる。どのような仕事に就きたいか、そのためには何が必要かを調べてレポートにまとめ提出する。 [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）
15	レポート講評：各コースアカデミックアドバイザーによりレポートの講評を行う（学生名は出さない）。 まとめ [課題（復習・準備）]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）

時間外での学修	自分の興味のある仕事について自主的に調べ、講師に質問できるように準備をしてください。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかり持って受講してください。 ＊授業の順序や内容は、講師の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S9S102】音楽総合特講Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	服部　篤典・菅田　文子・鈴木　孝育・横井　香織・松永　幸宏		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。、他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなど行う場面もあります。		
到達目標	知識・理解	音楽に関する分野の学びとともに社会人に求められる知識についても理解できる。	◎
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。	◎
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につける。	○
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができ、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力を養うための基盤となる知識について、実践的な基礎的・汎用的能力から、一般的な社会常識なども含めて学修します。中心となる内容として、専門科目の学修につながる言語的能力を中心に、他の教養科目や専門科目を学ぶ際に必要となる基本的知識、一般的な社会人・職業人に求められる常識的な知識などを学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
学修記録ノート	30	30	25	-	85
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	30	30	25	15	100

評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の３分の１以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による
テキスト	
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　自己分析（学科） [課題（復習・準備）]自己についての情報を収集し、自己理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h)
2	社会人になるために（１）「学生」と「社会人」の違い&職業観（学生・キャリア支援課） [課題（復習・発展）] 職業観について理解を深める。個々に職業観をまとめる。（3～5h)
3	社会人になるために（２）日本語の使い方（漢字・文章の書き方）（総合教育センター）：日本語検定の練習問題や過去問に取り組みながら、社会人にとって必要なマナーである「正しい日本語の使い方」を学ぶ。[課題（復習）授業で取り組んだ問題の復習をする。（1h）]
4	社会人になるために（３）日本語の使い方（言葉遣い、敬語、電話応対）（総合教育センター）：日本語検定の練習問題や過去問に取り組みながら、社会人にとって必要なマナーである「正しい日本語の使い方」を学ぶ。[課題（復習）授業で取り組んだ問題の復習をする。（1h）]
5	SPIの解き方①（総合教育センター）：企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習）]問題演習で出来なかった所を復習する。(1h）
6	SPIの解き方②（総合教育センター）：企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習）]問題演習で出来なかった所を復習する。(1h）
7	SPIの解き方③（総合教育センター）：企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習）]問題演習で出来なかった所を復習する。(1h）
8	書類作成の基本・作法（就職試験に必要な書類について）（学生・キャリア支援課） [課題（復習・発展）]履歴書の書き方を確認し、自己のライフプランを設計する(3h～5h)
9	履歴書、エントリーシートの書き方①自分の長所、アピールポイントを考える。グループワーク（学生・キャリア支援課） [課題（復習・発展）]自己の長所を再確認し、自己アピールを字数に応じて作成する。(3h～5h)
10	履歴書、エントリーシートの書き方②正しい形式で書く（学生・キャリア支援課） [課題（復習・発展）]エントリーシートの書き方を確認し、自己の進路希望職種を確認する(3h～5h)
11	論作文の書き方　基本（学科） [課題（復習・発展）]基本的な論作文の書き方について復習する。論作文課題に取り組む。（3～5h)
12	面接（１）　基本（学生・キャリア支援課＆総合教育センター） [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。面接の基本事項をまとめる。（3～5h)
13	面接（２）　個人面接ロールプレイ（学生・キャリア支援課＆総合教育センター） [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。また、個々に個人面接の課題に取り組む。（3～5h)
14	面接（３）　集団面接ロールプレイ（学生・キャリア支援課＆総合教育センター） [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。また、個々に集団面接の課題に取り組む。（3～5h)
15	まとめ（学科） [課題(復習)]全講義内容を振り返り、個々に省察し、苦手な分野の克服に努める。(3～5h)

時間外での学修	各回のテーマについて関心を持ち、授業後は配布プリント等を復習し理解を深めてください。分からない点、疑問点は図書館等で調べ解決してください。学修した内容や課題とされた内容を確実に自主学習し、定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかり持って受講してください。 ＊授業の順序や内容は、進度等の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S8S222】公務員・一般職試験対策Ⅰ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。、他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなど行う場面もあります。また、自宅での事前学習の確認テストを実施し、その場での解説をします。		
到達目標	知識・理解	社会人・職業人になるために求められる基本的な知識を身につけるとともに、音楽を人に伝えられる知識についても理解できる。	◎
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。	◎
	技能	社会人・職業人になるために必要なコミュニケーション能力や技能について、その基礎を身につける。	○
	関心・意欲・態度	自己の目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、音楽総合学科のDP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	職業人としての基盤となる知識について、実践的な活用能力から、一般的な社会常識なども含めて学修します。中心となる内容として、個々の進路実現のために「社会を知る」「自己を知る」「キャリアを描く」をテーマに具体的な試験対策を学修します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	20	10	-	60
課題、提出物、受講態度	10	10	10	10	40
合　計(点)	40	30	20	10	100

評価の特記事項	課題、提出物、受講態度においては、提出状況や取り組み姿勢なども考慮し、総合的に評価します。全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、テキストの事前学修課題については、毎回授業時に確認小テスト及び解説を行います。論作文は添削をして返します。
テキスト	『筆記試験対策ベーシックドリル「一般常識＆SPI」』就職試験研究グループ　実教出版(1,200円)ISBN:978-4-407-34941-2
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス。キャリアデザインの基本的な考え方を理解し、働く意義を考える。 [課題（復習・予習）]シラバスの熟読。確認テストの復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）
2	社会を知る　現代社会の仕組みを学ぶ 国語①（漢字の読み書き）、社会①〔日本地理〕、英語①（単語）の定着と発展 [課題(復習・予習)]日本の雇用制度や就職状況の把握。学んだ内容（国語・社会・英語）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
3	働く環境を知る　働き方の種類、労働関連法規など 国語②、（漢字の読み書き）社会②（世界地理）、英語②（熟語）の定着と発展 [課題(復習・予習)]日本の企業の現状や福利厚生についての情報を集める。学んだ内容（国語・社会・英
4	自己を知る①　自分の長所・短所・興味・関心など 国語③（漢字の読み書き）、社会③（日本史）、英語③（英会話表現）の定着と発展 [課題(復習・予習)]自己の情報について集める。グループ討議を行う。学んだ内容（国語・社会・英語）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
5	自己を知る②　自分の強みを生かして将来の仕事を考える 国語④（同字異義語、難読語の読み）、社会④（世界史）、数学①（まとめ）の定着と発展 [課題(復習・予習)]個々の就職に対する意識を高め、将来について考える。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
6	問題集勉強の仕方（１）（社会科学） 国語⑤（同音異義語、同訓異義語）、社会⑤（政治、国際政治）、数学②（数と式）の定着と発展 [課題(復習・予習)]社会科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
7	問題集勉強の仕方（２）（人文科学） 国語⑥（同義語、対義語、ことわざ、故事成語）、社会⑥（社会問題、経済）、数学③（方程式と不等式）の定着と発展 [課題(復習・予習)]人文科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
8	問題集勉強の仕方（３）（自然科学） 国語⑦（四字熟語）、社会⑦（金融・財政、企業・経営）、数学④（関数とグラフ）の定着と発展 [課題(復習・予習)]自然科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
9	問題集勉強の仕方（４）（一般知能） 国語⑧（慣用表現、敬語表現他）、社会⑧（国際経済、思想・宗教）、数学⑤（比と割合、平均）の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）

内容	
実施回	授業内容・目標
10	論作文の書き方（１）（公務員・一般職） 国語⑨（文学史他）、社会⑨（環境、福祉）、数学⑥（場合の数と確率）の定着と発展 [課題(復習・予習)]論作文の書き方について復習する。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
11	論作文の書き方（２）（公務員・一般職） 国語⑩（ベストセラーなど）、社会⑩（世界遺産、伝統工芸品他）、数学⑦（図形問題）の定着と発展 [課題(復習・予習)]論作文の練習・復習を課題プリントにて行う。学んだ内容（国語・社会・数学）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
12	論作文の書き方（３）（公務員・一般職） 総合問題、思考力を問う問題の定着と発展 [課題(復習・予習)]論作文の練習・復習を課題プリントにて行う。学んだ内容（総合問題、思考力を問う問題）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
12	SPI対策①　分類、概算、文章照合、基礎能力 [課題(復習・予習)]SPIについての理解を深める。学んだ内容（分類、概算、文章照合、基礎能力）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
13	SPI対策②　正誤の照合、表の読み取り、置換、計算、漢字の正誤 [課題(復習・予習)]SPIについての課題プリントで復習する。学んだ内容（正誤の照合、表の読み取り、置換、計算、漢字の正誤）の復習。次時内容の予習。（3～5h）
15	全体のまとめ(第1回～14回までの学修の確認と定着) [課題（復習）]学んだ内容の総合的な復習を行う。（3～5h）

時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が将来の進路実現を可能にします。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	音楽をライフワークとしていける職業への就職をめざして、就職試験全般を想定した学修を行います。具体的な問題や論作文の課題をこなしていく中で、基本的な知識の修得と学修習慣の定着を図ります。

【3S8B201】ヴォーカルⅠ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	五島　由美子		
資格・制限等	P・Or・MT・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	声楽家46年、声楽指導43年、合唱指導29年		
授業方法	グループレッスンを中心として、お互いの声を聴きながら学びます。		
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が出来る。	○
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽の表現が出来る。	◎
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに理解できる。	○
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学習に取り組むことができる。	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に着ける授業です。 前期はイタリア歌曲を取り上げます。正しい発声を身に着けて、表現力を深めていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	10	20	20	15	65
発表・レポート	5	5	5	5	20
学習成果の自己評価	5	5	-	-	10
受講態度(学習や提出物等)	-	-	-	5	5
合　計(点)	20	30	25	25	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして個人個人の発声の理解を確認します。
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可
参考書・教材	

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　正しい声の出し方　ブレスの仕方　身体表現等を学ぶ。 コンコーネ　No.2 [課題(復習)]　呼吸は一番大切なことなので、しっかり訓練して下さい。　1h
2	グループ授業であるから、お互いに声を聴き合い学ぶ。　イタリア歌曲導入 コンコーネ　No.2　Caro mio ben [課題(復習)]　身体表現なので、姿勢には普段から気を付けること。　1h
3	イタリア語の発声を学び、日本語との相違点を確認する。 コンコーネ　No.2　Caro mio ben [課題(復習)]　イタリア歌曲は母音の明るさが特徴なので、明るい母音を毎日訓練しましょう。　1h
4	イタリア歌曲の持つ明るい響きを学ぶ。 コンコーネ　No.2　Caro mio ben [課題(復習)]　顔の顔面に響きが来るように、日々体を使って会話しましょう。　1h
5	イタリア古典作曲家の作品を学ぶ。 コンコーネ　No.1　Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]　独特な子音の練習を欠かさず行います。　1h
6	イタリア語独自の発声に注意しながら歌うことができる。 コンコーネ　No,1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]　ハミングでの練習で息を長くしましょう。　1h
7	装飾音の取り扱いに注意して歌う。 コンコーネ　No.1 Nel cor piu non mi sento [課題(復習)]　毎日歌詞を読む訓練をします。　1h
8	フレーズの長さを考える。 コンコーネ　No.3 Sebben crudere [課題(復習)]　リズム感が大切です。体でリズムが刻めるようにします。　1h
9	コンコーネ　No.3 Sebben crudere [課題(復習)]　短調の曲を理解する。　1h
10	コンコーネ　No.3 Sebben crudere [課題(復習)]　歌詞を覚える。　1h
11	イタリアバロックの作曲家、ヘンデルの曲を学ぶ。 コンコーネ　No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]　母音で息を長くします。　1h
12	フレーズの長さを考える。 コンコーネ　No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]　母音によって響きが変わらないように、全ての母音で練習します。　1h
13	フレーズの長さを保つ練習。 コンコーネ　No.3 Ombra mai fu [課題(復習)]　ピアノと合わせる練習をしましょう。　1h
14	試験曲を選曲する。各自課題を出し合い、話し合う。 コンコーネ　No.3 試験曲を各グループごとに分かれて歌う。 [課題(復習)]　伴奏者とコミュニケーションをとる。　1h
15	伴奏合わせをする。 コンコーネ　No.3　テスト前の試演会 [課題(復習)]　伴奏に合わせ、各自の思いが伝わる演奏ができるようにする。

時間外での学修	毎日発声の練習をして下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生への メッセージ	身体表現の授業ですから、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。

【3S8S202】ヴォーカルII	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	五島　由美子		
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MTコース必修／W/MTコース選択必須		
実務家教員	声楽家46年、声楽指導43年、合唱指導29年		
授業方法	グループレッスンの中で相互に他声を聴き合い、意見交換をする。		
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的知識や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することができる。	○
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることができる。	◎
	技能	音楽の専門家として情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	○
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は日本歌曲とドイツ歌曲を取り上げます。 それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交えて進めていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	10	20	20	15	65
発表・レポート	5	5	5	5	20
学習成果の自己評価	5	5	-	-	10
受講態度(学修や提出物等)	-	-	-	5	5
合　計(点)	20	30	25	25	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして各項目終了時に個別に確認し指示をします。
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可
参考書・教材	なし

内容

実施回	授業内容・目標
1	日本歌曲を学ぶ。　浜辺の歌 コンコーネ　No.4 [課題(準備)]　日本歌曲の歴史を学ぶ。　1h
2	イタリア歌曲との相違を学ぶ。　浜辺の歌 コンコーネ　No.4 [課題(準備)]　浜辺の歌の歌詞を朗読する。　1h
3	情景を浮かべながら歌う。　赤とんぼ コンコーネ　No5 [課題(準備)]　作曲者　山田耕筰について文献を調べる。　1h
4	作詞家・作曲家の意図を知る。　赤とんぼ コンコーネ　No5 [課題(準備)]　赤とんぼの歌詞を朗読する。　1h
5	言葉に沿って音楽の流れをつかむ。　早春賦 コンコーネ　No.6 [課題(準備)]　作曲者　中田章について文献を調べる。　1h
6	響きの位置を確認しながら歌う。　早春賦 コンコーネ　No.6 [課題(準備)]　早春賦の歌詞を朗読する。　1h
7	日本歌曲のまとめ。　浜辺の歌　赤とんぼ　早春賦の中から各自選曲した曲を発表し演奏する。 [課題(準備)]　ピアニストとよく合わせをしておく。
8	ドイツ歌曲を学ぶ。　Ich liebe dich コンコーネ　No.7 [課題(準備)]　ベートーベンについて文献を調べる。　1h
9	ドイツ歌曲を学ぶ。　Ich liebe dich コンコーネ　No.7 [課題(準備)]　Ich liebe dichの歌詞をよく読む。　1h
10	ドイツ歌曲を学ぶ。　An die Musik コンコーネ　No.8 [課題(準備)]　ｼｭｰﾍﾞﾙﾄについて文献を調べる。　1h
11	ドイツ歌曲を学ぶ。　An die Musik コンコーネ　No.8 [課題(準備)]　An die Musikの歌詞をよく読む。　1h
12	ドイツ歌曲を学ぶ。　Heidenröslein コンコーネ　No.10 [課題(準備)]　Heidenrösleinの歌詞をよく読む。　1h
13	ドイツ歌曲を学ぶ。　Heidenröslein コンコーネ　No.10 [課題(準備)]　Heidenrösleinの歌詞をよく読む。　1h
14	ドイツ歌曲のまとめ。 学修した3曲のドイツ歌曲から各自選曲し歌う。 [課題(準備)]　選曲した曲を暗譜する。　1h

内容	
実施回	授業内容・目標
15	ヴォーカルⅠで学修した声楽の基礎を基に、ドイツ歌曲、日本歌曲を学ぶ。

時間外での学修	身体を鍛えて発声練習を毎日行うこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生への メッセージ	身体表現の授業ですので、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。

【3S8B205】ソルフェージュⅠ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	五島　由美子		
資格・制限等	P・Or・MT・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	声楽家46年、声楽指導43年、合唱指導29年		
授業方法	実技・実践を中心として基礎的な音楽知識を習得していきます。		
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。	◎
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。	○
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーションの能力がある。	△
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○
	備考	◎・○・△に記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽を的確に表現する為の、音楽的基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	20	-	10	10	40
筆記試験	30	10	-	-	40
自己評価	5	5	-	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	55	15	10	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、返却時に解答の解説をします。
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エヌ・ティー・エヌ 手持ち可
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	ソルフェージュについて（授業ガイダンス、ソルフェージュの理解と確認） コンコーネ1 ［課題(復習)］これまでに学んだことのあるソルフェージュについての質疑応答。　(1～2h)
2	コールユーブンゲン　No.2　4　6　聴音 コンコーネ2 ［課題(準備)］コールユーブンゲンNo.7　9　11の予習。　(1～2h)
3	コールユーブンゲン　No.7　9　11　聴音 コンコーネ3 ［課題］コールユーブンゲンNo.13　15　17の予習とNo.7　9　11の復習。　(1～2h)
4	コールユーブンゲン　No.13　15　17　聴音 コンコーネ4 ［課題］コールユーブンゲンNo.18の予習とNo.13　15　17の復習。　(1～2h)
5	コールユーブンゲン　No.18　聴音　　確認テスト　No.18まで コンコーネ5 ［課題］コールユーブンゲンNo.19　20の予習とNo.18の復習。　(1～2h)
6	コールユーブンゲン　No.19　20　聴音　　新曲第1章　No.1～No.5 コンコーネ6 ［課題］コールユーブンゲンNo.23の予習と新曲視唱の復習。　(1～2h)
7	コールユーブンゲン　No.23　聴音　　新曲第1章　No.11～No.15 コンコーネ7 ［課題］コールユーブンゲンNo.24の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
8	コールユーブンゲン　No.24　聴音　　新曲第1章　No.21～No.25 コンコーネ8 ［課題］コールユーブンゲンNo.25の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
9	コールユーブンゲン　No.25　聴音　　新曲第1章　No.31～No.35 コンコーネ9 ［課題］コールユーブンゲンNo.26の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
10	コールユーブンゲン　No.25までの確認テスト　　新曲第1章　No.41～No.45 コンコーネ10 ［課題］コールユーブンゲンNo.26の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
11	コールユーブンゲン　No.26　聴音　　新曲第1章　No.111～No.115 コンコーネ11 ［課題］コールユーブンゲンNo.27の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
12	コールユーブンゲン　No.27　聴音　　新曲第1章　No.121～No.125 コンコーネ12 ［課題］コールユーブンゲンNo.28の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
13	コールユーブンゲン　No.28　聴音　　新曲第1章　No.131～No.135 コンコーネ13 ［課題］コールユーブンゲンNo.29の予習と既習曲の復習。　(1～2h)
14	コールユーブンゲン　No.29　聴音　　新曲第1章　No.141～No.145 コンコーネ14 ［課題］既習曲の復習。　(1～2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	コールユーブンゲン　No.29までの確認テスト　　新曲第1章　No.151～No.155 コンコーネ15 ［課題(復習)］既習の演習課題を復習しておく。　(1～2h)

時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかり行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。

【3S8S206】ソルフェージュⅡ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	五島　由美子		
資格・制限等	P・Ｏｒ・MT・P/MT・Or/MTコース必修／W/MTコース選択必須		
実務家教員	声楽家46年、声楽指導43年、合唱指導29年		
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。		
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。	◎
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。	○
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	△
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	１年前期で習得した音楽を、更に的確に表現するための音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	20	-	10	10	40
筆記試験	30	10	-	-	40
自己評価	5	5	-	-	10
受講意欲	-	-	-	10	10
合　計(点)	55	15	10	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	コンコーネNo.4　コールユーブンゲンNo.30　新曲視唱No.6～No.10　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.31を予習し、No.30の復習をする。　(1h)
2	コンコーネNo.4　コールユーブンゲンNo.31　新曲視唱No.16～No.20　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.32を予習し、No.31の復習をする。　(1h)
3	コンコーネNo.5　コールユーブンゲンNo.32　新曲視唱No.28～No.30　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.33を予習し、No.32の復習をする。　(1h)
3	コンコーネNo.5　コールユーブンゲンNo.33　新曲視唱No.36～No.40　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.34 No.35を予習し、No.33の復習をする。　(1h)
5	コンコーネNo.6　コールユーブンゲンNo.34 No.35　新曲視唱 第2章No.1～No.10　聴音 到達度確認テスト ［課題］コールユーブンゲンNo.36を予習し、No.34 No.35の復習をする。　(1h)
6	コンコーネNo.6　コールユーブンゲンNo.36　新曲視唱 第2章No.11～No.20　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.37を予習し、No.36の復習をする。　(1h)
7	コンコーネNo.7　コールユーブンゲンNo.37　新曲視唱 第2章No.21～No.30　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.38を予習し、No.37の復習をする。　(1h)
8	コンコーネNo.7　コールユーブンゲンNo.38　新曲視唱 第2章No.31～No.40　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.39を予習し、No.38の復習をする。　(1h)
9	コンコーネNo.8　コールユーブンゲンNo.39　新曲視唱 第2章No.41～No.50　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.40 No.41を予習し、No.39の復習をする。　(1h)
10	コンコーネNo.8　コールユーブンゲンNo.40 No.41　新曲視唱 第2章No.51～No.60　聴音 到達度確認テスト ［課題］コールユーブンゲンNo.42 を予習し、No.40 No.41の復習をする。　(1h)
11	コンコーネNo.11　コールユーブンゲンNo.42　新曲視唱 第2章No.61～No.70　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.43 を予習し、No.42の復習をする。　(1h)
12	コンコーネNo.11　コールユーブンゲンNo.43　新曲視唱 第2章No.71～No.80　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.44 を予習し、No.43の復習をする。　(1h)
13	コンコーネNo.12　コールユーブンゲンNo.44　新曲視唱 第2章No.81～No.90　聴音 ［課題］コールユーブンゲンNo.45 を予習し、No.44の復習をする。　(1h)
14	コンコーネNo.12　コールユーブンゲンNo.45　新曲視唱 第3章No.1～No.10　聴音 ［課題］コールユーブンゲン１年のまとめ。既習曲の復習をする。　(1h)
15	コンコーネNo.12　到達度確認テスト　新曲視唱 第3章No.11～No.20　聴音 ［課題(復習)］コールユーブンゲン１年のまとめ。既習曲の復習をする。　(1h)

時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総修学時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気をつけて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。

【3S8B109】音楽理論Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	長尾　洪基		
資格・制限等	MT・W・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含　高等学校教員）・32年		
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。		
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。	○
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽を演奏するためには、楽譜についての「約束事」を知る必要があります。それが音楽理論です。すでに知っていることなども、基本から系統立てて学修します。音・音楽についての正確な知識を身に付け、自身の演奏する楽曲について理解を高め、演奏に活かされることを目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	40	20	-	-	60
小テスト	15	5	-	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	55	25	-	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業説明 音・純正律と十二平均律 楽譜の書き方 [課題（準備）]　テキストの序章をひと通り読んでおく、音部記号・音符を書いてみる（4h）
2	譜表と音名 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
3	音符と休符 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
4	リズムと拍子（１）　リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意、強起と弱起 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
5	リズムと拍子（２）　拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
6	音程（１）　度数、音程における完全・長・短などの種類、幹音どうしの2音によってできる音程 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
7	音程（２）　派生音（♯・♭などのついた音）を含む２音によってできる音程 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
8	音程（３）　複音程 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
9	音程（４）　音程の転回、協和音程と不協和音程 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
10	音階（１）　長音階と短音階① [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
11	音階（２）　長音階と短音階② [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
12	音階（３）　調① [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
13	音階（４）　調② [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
14	音階（５）　調の相互関係 [[課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
15	前期まとめ [課題（復習・準備）]　学修した内容の復習・試験対策（4～10h）

時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 ［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；６０時間］
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3S8S110】音楽理論Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	長尾　洪基		
資格・制限等	MT・W・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含　高等学校教員）・32年		
授業方法	講義授業ですが、質疑応答の時間を設け、問題を解きながら進めていきます。		
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。	○
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験	40	20	-	-	60
小テスト	15	5	-	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	55	25	-	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対してコメントを返します。
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008 「音楽理論Ⅰ」履修者は購入済
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	音階（６）　移調と転調① [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
2	音階（７）　移調と転調② [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
3	音階（８）　調の判定① [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
4	音階（９）　調の判定② [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
5	音階（10）　調の判定③、その他の音階 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
6	和音（１）　三和音と七の和音 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
7	和音（２）　三和音の種類 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
8	和音（３）　和音の基本形および転回形 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
9	和音（４）　音階各音上の三和音、七の和音 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
10	和音（５）　和音の機能、主要三和音と副三和音 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
11	速さ・強さに関する表示法 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
12	曲想・奏法に関する表示法（１）　曲想に関する用語（発想標語） [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
13	曲想・奏法に関する表示法（２）　奏法を指示する用語・記号 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
14	曲想に関する表示法（３）　装飾音・装飾記号、略記法 [課題（復習）]　学修した内容の復習・宿題（4h）
15	まとめ [課題（復習・準備）]　学修した内容の復習・試験対策（4h）

時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。 ［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3S8B111】音楽史Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	三輪　泰子		
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	音楽教室講師・17年		
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。		
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。	◎
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。	○
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミニュケーション能力に発展させる。	○
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	40	20	20	-	80
ノートチェック	-	-	-	10	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	20	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます。
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬直美　春秋社(3,024円)ISBN:978-4393930014
参考書・教材	特にありません。

内容

実施回	授業内容・目標
1	古代、中世の音楽 [課題（準備）]音楽史の本を読んでみましょう。(3～5h)
2	ルネサンス音楽 [課題（予習）]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(3～5h)
3	バロック音楽 [課題（予習）]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(3～5h)
4	クラシック音楽 [課題（予習）]モーツァルトを聴いてみましょう。(3～5h)
5	クラシック音楽 [課題（予習）]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(3～5h)
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(3～5h)
7	ロマン主義音楽 [課題（予習）]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(3～5h)
8	第1回レポート [課題（準備）]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。。 (3～5h)
9	ロマン主義音楽 [課題（予習）]リストを聴いてみましょう。(3～5h)
10	新ロマン主義音楽 [課題（予習）]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(3～5h)
11	フランス音楽 [課題（予習）]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(3～5h)
12	イタリア音楽 [課題（予習）]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(3～5h)
13	イギリス音楽 [課題（予習）]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(3～5h)
14	ウィーンの音楽 [課題（予習）]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(3～5h)
15	アメリカの音楽 [課題（予習）]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(3～5h)

時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；６０時間］
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3S8S112】音楽史Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	三輪　泰子		
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	音楽教室講師・17年		
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。		
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。	◎
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。	○
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミニュケーション能力に発展させる。	○
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	40	20	20	-	80
ノートチェック	-	-	-	10	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	20	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬　直美　春秋社(3,024円)ISBN:978-4393930014 「音楽史Ⅰ」履修者は購入済
参考書・教材	特にありません。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ロシアの音楽 [課題（予習）]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
2	ロシアの音楽 [課題（予習）]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題（予習）]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題（予習）]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
5	スペインの音楽 [課題（予習）]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
6	民族主義音楽のまとめ [課題（予習）]お気に入りの曲を見つけて聴いてみおましょう。(3～5h)
7	第3回レポート [課題（準備）]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(3～5h)
8	近代・現代の音楽 [課題（予習）]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
9	近代・現代の音楽 [課題（予習）]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
10	近代・現代の音楽 [課題（予習）]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
11	近代・現代の音楽 [課題（予習）]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
12	近代・現代の音楽 [課題]（予習）]バレフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
13	近代・現代の音楽 [課題（予習）]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3～5h)
14	日本の音楽 [課題（復習）]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(3～5h)
15	世界の音楽 [課題（復習）]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(3～5h)

時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。［この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：６０時間］
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3S3B204】鍵盤楽器Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	野口　歩		
資格・制限等	MT・W/MTコース必修		
実務家教員			
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスンの時間までの空き時間は、自主練習をして待っていること。		
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的奏法を習得することができる。	○
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。	◎
	技能	基礎的演奏技術の向上を目指すことができる。	◎
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組む姿勢を大切にできる。	○

授業内容	基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさ素晴らしさを演奏表現できるようにしていきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	30	30	-	60
受講態度	20	-	-	20	40
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題終了時に伝えます。
テキスト	指定のテキストはありません。 第1回目の授業（ガイダンス）後、一人一人の進度に合った楽譜を個々で準備する。
参考書・教材	個々のに進度に合った楽譜を選択します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス・次回からの授業の進め方の説明・個々に練習曲を選曲 [課題(準備・予習)]次回からの練習曲を譜読みする。(1h)
2	練習曲(1)指使い [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、指のポジションや指使いを確認する。(1h)
3	練習曲(2)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を十分に行う。(1h)
4	練習曲(3)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)
5	練習曲(4)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲想を考えて演奏する。(1h)
6	練習曲(5)弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを考えて、反復練習する。(1h)
7	練習曲(6)仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、練習を積み重ね曲をまとめる。(1h)
8	試験曲の選曲を個々に行う。 [課題(準備・予習)]試験曲の譜読みをする。(1h)
9	試験曲(1)指使い [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、指使いの工夫やポジションの再確認をする。(1h)
10	試験曲(2)フレージング・バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしいテンポや音のバランスを考える。(1h)
11	試験曲(3)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音楽の流れや響きを考える。(1h)
12	試験曲(4)暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を丁寧にする。(1h)
13	試験曲(5)弾き込み [課題(復習)]レッスンの復習をし、曲の流れをとらえて止まらないで演奏できるように弾き込む。(1h)
14	試験曲(6)仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、曲の理解を深めるための練習を積み重ねる。(1h)
15	試験曲(7)前期のまとめ・音楽的に演奏できるように弾き込む [課題(復習・準備)]休暇中の課題決め。(1h)

時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し各専門分野に結び付け役立てていけるよう、各自目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは、レッスン時間の前後の休み時間に教室で実施。

【3S3S205】鍵盤楽器II	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	野口　歩		
資格・制限等	MTコース必修／W/MTコース選択必須		
実務家教員			
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスンの時間までの待ち時間は、課題の自主練習をして待っていること。		
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的奏法を習得することができる。	○
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。	◎
	技能	基礎的演奏技術の向上を目指すことができる。	◎
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組む姿勢を大切にできる。	○

授業内容	基礎的な演奏技術や奏法を習得し、音楽の楽しさ素晴らしさを演奏表現できるようにしていきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	30	30	-	60
受講態度	20	-	-	20	40
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題終了時に伝えます。
テキスト	
参考書・教材	個々の進度に合った楽譜を選択します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	練習曲(1)休暇中の課題発表・見直し [課題(準備)]次回からの練習曲を選曲する。(1h)
2	練習曲(2)譜読み [課題(予習・復習)]選曲した練習曲の譜読みをする。(1h)
3	練習曲(3)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を十分する。(1h)
4	練習曲(4)強弱・フレージング [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)
5	練習曲(5)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽語の意味を理解し、曲想を付ける。(1h)
6	練習曲(6)テンポ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲にふさわしいテンポにする。(1h)
7	練習曲(7)音色作り [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色をイメージして創り出す。(1h)
8	練習曲(8)試験曲の部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、演奏するにあたり困難なところを重点的に部分練習する。(1h)
9	練習曲(9)フレージング・バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、フレーズの確認と、左右の音のバランスを考える。(1h)
10	練習曲(10)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、豊かな音楽表現を付ける。(1h)
11	練習曲(11)暗譜 [課題(復習)]レッスンの復習をし、暗譜を丁寧にする。
12	練習曲(12)確実な暗譜 [課題(復習)]レッスンの復習をし、楽譜の再確認し、暗譜を確実にする。(1h)
13	練習曲(13)弾き込む [課題(復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを止めずに演奏できるようにする。(1h)
14	練習曲(14)仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、何度も繰り返し練習する。(1h)
15	練習曲(15)まとめ [課題(復習)]これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるようにする。(1h)

時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	ピアノ演奏を通し各々の専門分野に結び付け役立てていけるよう、各自目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3T7F201】スポーツ・レクリエーションⅠ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	垣添　忠厚		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)		
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。		
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。	◎
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把判断し、主体的に活動することができる。	○
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。	○
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月8日（土）は、岐阜メモリアルセンターで開催予定の「ぎふ清流レクリエーションフェスティバル」にスタッフとして参加する学外授業となります（詳細は、授業時に説明します）。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	15	-	-	-	15
自己評価	15	-	-	-	15
発表	-	20	20	-	40
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポート、自己評価は毎回のレポートを基に評価します。実技は、イベントスタッフの実践の様子、イベント企画の発表を参考に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。
ＩＣＴ活用	日本レクリエーション協会公式ホームページ「レクぽ」を活用しレクリエーションの展開モデルを参考とする。
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人　日本レクリエーション協会　(1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法　楽しさをとおした心ん元気づくり　補助教材』公益財団法人　日本レクリエーション協会(880円)
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス/理論（レク科目2）：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気 ・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 ［課題（復習）］心の元気づくりに大切な要素をレポートにまとめる。（1h～2h）
2	理論(レク科目2)：心の元気と地域のきずな及び学外実習の説明 ・対象者のこころの元気づくりの理解 ［課題（復習）］学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。（1h～2h）
3	理論（レク科目6)：リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習）]ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。（1h～2h）
4	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法１ ・コミュニケーションワークⅠ（個人ゲーム） ［課題（予習）］個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
5	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法２　（松岡） ・コミュニケーションワークⅡ（集団ゲーム） ［課題（予習）］集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
6	10/8　現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）１　　11/1分補講 ［課題（予習・準備）］自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。（1h～2h）
7	実技(科目4)：自主的主体的に楽しむ力を高める展開方法　（松岡） ・レクリエーションのハードル設定とアレンジ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
8	実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得２　（松岡） ・レクリエーション支援のための集団ゲーム１ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
9	10/8　現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）２　　11/22分補講 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）
10	実技（レク科目5）イベント企画１（グループ作り、計画準備） ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベント（クリスマスレクリエーション大会）を考え、計画する ［課題（予習）］クリスマス会に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。（1h～2h）
11	実技（レク科目5)イベント企画２（企画準備・内容確認） ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 ［課題（復習・準備）］クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる（1h～2h）
12	演習：イベント企画３　クリスマスレクリエーション大会（発表１）、まとめ、ノート（課題）の確認 ［課題（復習）］クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）
13	演習：イベント企画４　クリスマスレクリエーション大会（発表２）、まとめ、ノート（課題）の確認 ［課題（復習）］クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	10/8　演習：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）３　1/10補講分 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）
15	10/8　実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得１　現場での演習　　1/17補講分 ・レクリエーションフェスティバルのレクリエーションブース（集団ゲーム）を体験する。 [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）

時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること（参加手続きが必要な場合が有ります）。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：Ⅱ号館2F)で毎週金曜日12：15～12：45です。

【3T7B109】音楽心理学	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	MT・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	演習を含む講義形式		
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。	◎
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。	○
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。	△
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。	◎

授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	40	20	-	-	60
課題提出	-	-	10	10	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	40	20	10	30	100

評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	授業の感想、課題提出をGoogleフォームを利用して行います。
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形で提出された高評価のレポートを紹介します。
テキスト	授業内でプリントを配布する。
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	音楽心理学とは 実験１：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる（4H）
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験２：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する（4H）
3	リズム知覚能力の発達 実験３：調の色彩的表象 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる（4H）
4	共感覚について 実験４：楽器の音色による色彩的表象（12色以上の色鉛筆を持参してください）集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる（4H）
5	絶対音感と相対音感について 実験５：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について（1）観察法（2）実験法（3）質問紙法　それぞれの特長と適した研究法について[課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する（4H）
6	音による感情伝達 実験６：打楽器による感情表現　集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する（4H）
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題（復習）]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる（4H）
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる（4H）
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI　集団活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する（4H）
10	音楽聴取に関する研究１：感情の神経・生理学的測定について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する（4H）
11	音楽聴取に関する研究２：刺激間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）
12	音楽聴取に関する研究２：刺激間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）
13	演奏不安に関する研究について　討論、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる（4H）
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、理解を深める（4H）
15	テスト前の振り返り [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストの準備をする（4H）

時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7S105】教育原理	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	小椋　博文		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	高等学校管理職・10年		
授業方法	講義を中心としますが、ペアワークも取り入れながら進めます。知識を身に付けるだけでなく、教育や保育に対する自分の考え方の形成を目指して展開していきます。		
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。	○
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。	○
	関心・意欲・態度	教育・保育に対する関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。	△

授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解することを目指します。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	50	-	-	-	50
課題提出	-	20	20	-	40
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	50	20	20	10	100

評価の特記事項	筆記試験の他に評価の対象となる課題は、レポート（２回）及び授業で使用したワークシートです。受講態度は授業への取組の態度で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	ワークシート（ファイル）は学年末に返却します。
テキスト	『【シリーズ知のゆりかご】　いまがわかる教育原理』西本　望　編　みらい(2,310円)ISBN:978-4-86015-450-9
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省,『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』内閣府他,『保育所保育指針』厚生労働省,いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省,『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』内閣府他,『保育所保育指針解説』厚生労働省,いずれも平成30年。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	教育の意義 ［課題（予習）］第１章(P14～P25）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
2	教育の目的 ［課題（予習）］第２章(P26～P37）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
3	教育と児童福祉のつながり ［課題（予習）］第３章(P38～P47）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
4	人間形成と家庭・地域・社会 ［課題（予習）］第４章(P48～P59）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
5	近代教育成立の歴史とさまざまな国の教育思想家たち ［課題（予習）］第５章(P60～P65）、第６章(P72～P83）、第８章(P100～P113）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
6	日本の教育思想と歴史 ［課題（予習）］第７章(P84～P99）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
7	教育制度の基礎 ［課題（予習）］第５章(P65～P68）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
8	諸外国の教育制度 ［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
9	教育の方法 ［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
10	教育の内容／保育・教育実践の基礎理論 ［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
11	教育実践の多様な取り組み① ［課題（予習）］第１２章(P160～P175）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
12	教育実践の多様な取り組み② ［課題（復習）］さまざまな教育実践についての学びを振り返りまとめる。(2～4h)
13	教育実践の多様な取り組み③ ［課題（復習）］最も興味を持った教育実践についてレポートを作成する。(2～4h)
14	生涯学習社会と教育① ［課題（予習）］第１３章(P176～P189）を通読する。［課題（復習）］学びを振り返りまとめる。(2～4h)
15	生涯学習社会と教育 ［課題（復習）］『生涯学習の課題と施策』で学んだ中で最も興味を持った課題についてレポートを作成する。(2～4h)

時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んできてください。また、授業で使用したワークシートを使って復習をしてください。また、レポート作成の際には、図書館の書籍やインターネット等を活用して情報収集してください【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生への メッセージ	質問等のある人は授業後A304(A号館3F)へ気軽に訪ねてきてください。

【3T7S107】発達心理学	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	茂木　七香		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に基づき自分自身を振り返る演習的内容や、クラウドサービス「Sli.do」への意見入力など、能動的に学ぶ手法（アクティブラーニング）を適宜取り入れます。		
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を「対象」として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。	◎
	技能	対象を理解し、現在の発達段階の特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。	○
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょう？発達というと赤ちゃんから大人までの期間がクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理的側面から理解していきます。自分自身のこれまでの人生も振り返りながら、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
授業時間内課題	20	10	-	5	35
授業時間外課題	10	20	-	5	35
小レポート	-	-	5	-	5
最終レポート	5	5	10	-	20
受講態度	-	-	-	5	5
合　計(点)	35	35	15	15	100

評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニッツペーパー　　授業時間外課題：時間外に取り組み次回授業で提出　　レポート：ルーブリック(評価基準）とともに課題内容を提示
ＩＣＴ活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを用いるので、携帯電話やタブレットを利用する人はWifi利用登録をお勧めします。
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は次回以降の授業内で全体へのコメントとしてフィードバックを行います。 5回目の授業は4回目授業時間外課題の小レポートを用いた反転授業を行います。15回目の授業も14回目授業時間外課題のワークシートを用いた反転授業を行います。
テキスト	『ガイドライン「生涯発達心理学」』二宮克美・大野裕明・宮沢秀次編　ナカニシヤ出版(2,000円)ISBN:978-4779506819
参考書・教材	保育所保育指針　幼稚園教育要項　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 補足資料を授業で配付します。その他、参考図書や関連動画などは授業中に適宜紹介します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	第１章　生涯発達心理学の基礎　シラバス説明、文章の書き方 [課題(復習)]教科書第1章（P1～P12）（2～4h）
2	第２章　発達研究の方法 [課題(復習)]教科書第2章（P13～P30）（2～4h）
3	第３章　胎児期・乳児期 [課題(復習)]教科書第3章（P31～P48）（2～4h）
4	第４章　幼児期 [課題(復習)]教科書第4章（P31～P48、小レポート作成）（4～6h）
5	レポート交流授業　レポートの書き方 [課題(復習)]レポートの書き直し（2～4h）
6	第５章　児童期 [課題(復習)]教科書第5章（P63～P80）（2～4h）
7	第６章　青年期前期 [課題(復習)]教科書第6章（P81～P94）（2～4h）
8	第７章　青年期中期 [課題(復習)]教科書第7章（P95～P108）（2～4h）
9	第８章　青年期後期 [課題(復習)]教科書第8章（P109～P124）（2～4h）
10	図書館活用授業　発達課題に関連する絵本から学ぶ [課題(復習)]発達課題を扱っている絵本についてまとめる　（2～4h）
11	第９章　成人期前期 [課題(復習)]教科書第9章（P125～P142）（2～4h）
12	第10章　成人期中期(中年期) [課題(復習)]教科書第10章（P143～P154）（2～4h）
13	第11章　成人期後期(老年期) [課題(復習)]教科書第11章（P155～P170）（2～4h）
14	発達心理学の研究者、発達心理学研究の実際 [課題(復習)]身近な発達心理学研究についてまとめる（2～4h）
15	まとめ　レポート交流授業 [課題(復習)]最終レポートの作成（4～6h）

時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業）。日常生活では、あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。　オフィスアワー：木曜日11時～12時（A306研究室）

【3T7S104】子どもの保健	音楽総合学科		1年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	杉本　陽子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	病院看護師５年以上		
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義が中心ですが、受講生の考えや意見を求めながら双方向で進めていきます。		
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について、基本的な知識を理解できる。	◎
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの心と体の健康を守るための取り組みと課題について考えを述べることができる。	○
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる。	△
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる。	△
	備考	◎○△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	「子どもの保健」は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学ぶ科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
小テスト	65	25	-	-	90
レポート	-	-	5	5	10
合　計(点)	65	25	5	5	100

評価の特記事項	レポートは、小テストの中の記述式解答から評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	小テスト結果から、必要な内容について次回授業でフィードバックします。
テキスト	『新基本保育シリーズ11「子どもの保健」』松田博雄、金森三枝　中央法規(2,200円)ISBN:978-4-8058-5791-5
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1　杉本	ガイダンス（授業の概要、評価方法）、子どもの健康と保育（子どもとは、おとなとは、養護と教育、保育における活動の場） ［課題（予習）］テキスト第1講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
2　杉本	子どもの健康概念と健康指標（健康の定義と指標、出生と子どもの死亡、子どもの疾病・異常） ［課題（予習）］テキスト第2・3講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
3　杉本	子どもの健康と母子保健施策（児童福祉法と施策、母子保健法と施策、先天性代謝異常症等マス・スクリーニング） ［課題（予習）］テキスト第3・8講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
4　杉本	地域保健活動と児童虐待の防止（地域における保健活動、児童虐待の防止等に関する法律と施策） ［課題（予習）］テキスト第4講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
5　杉本	子どもの成長と発達、身体的成長（成長発達の原則、身長・体重、脳の発達と運動機能） ［課題（予習）］テキスト第5講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
6　杉本	子どもの身体的成長と成長評価（頭部・胸部・歯・骨の成長、成長評価） ［課題（予習）］テキスト第5講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
7　浅井	子どもの機能的発達１（バイタルサイン－体温・呼吸・循環機能、水分代謝） ［課題（予習）］テキスト第6講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
8　杉本	子どもの機能的発達２（消化機能、腎泌尿器機能、中枢神経機能、血液機能、免疫機能、言語機能、発達評価） ［課題（予習）］テキスト第6講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
9　杉本	乳児期・幼児前期の子どもと家族（乳児期・幼児前期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） ［課題（予習）］テキスト第7・10・11・14講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
10　杉本	幼児後期・学童期の子どもと家族（幼児後期・学童期の認知発達、心理社会的発達、よくある病気） ［課題（予習）］テキスト第12・13・14講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
11　浅井	子どもの安全と事故予防（子どもの不慮の事故の特徴、家庭内や地域で起こりやすい事故、子どもの事故予防と環境の安全） ［課題（予習）］ニュースで報じられた子どもの事故について情報収集する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
12　杉本	子どもの遊びと保育（遊びの意義・目的・分類、病気の子どもにとっての遊びの意義） ［課題（予習）］現代における子どもの遊びの特徴について情報収集する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
13　杉本	子どもの食と栄養（子どもの食と栄養の特徴、乳児期・幼児期・学童期の食と栄養の特徴） ［課題（予習）］現代における子どもの食の特徴について情報収集する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）
14　杉本	子どもの疾病予防と予防接種（子どもの疾病予防、予防接種法と施策） ［課題（予習）］テキスト第15講を通読する（1h）［課題（復習）］学を振り返りまとめる（1h）
15　杉本	子どもと病気（子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響） ［課題（予習）］テキスト第9講を通読する（1h）［課題（復習）］学びを振り返りまとめる（1h）

時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかり取り組んでください。学んだことを日常生活で接する子どもの様子で確認してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	日ごろから子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意識的に観察してください。オフィスアワーは毎週火曜日10時～12時Ｉ319研究室（Ｉ号館3階）で対応します。

【3T7B210】音楽療法演習	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	日比　あけみ		
資格・制限等	MTコース必修／W/MT・P/MT・Or/MTコース選択必須		
実務家教員	福祉および医療現場にて音楽療法実践18年		
授業方法	学内での演習、発表。実践形式で行います。		
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。	○
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。	○
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。	◎
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実践発表	10	10	20	10	50
受講態度	-	10	-	10	20
レポート	-	-	10	10	20
期末試験	10	-	-	-	10
合　計(点)	20	20	30	30	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	
参考書・教材	資料を配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション（年間計画・課題の確認） [課題（準備）]目標設定１（1～3h）
2	グループ発表準備 [課題（準備）]計画、役割分担、練習（1～3h）
3	グループ発表① [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
4	グループ発表② [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
5	グループ発表③ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
6	グループ発表④ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
7	グループ発表⑤ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
8	グループ発表評価、個人発表準備 [課題（準備）]自己評価、目標設定２、計画、練習（1～3h）
9	個人発表① [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
10	個人発表② [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
11	個人発表③ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
12	個人発表④ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
13	個人発表⑤ [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）
14	個人発表評価 [課題（準備・復習）]自己評価、目標設定３（1～3h）
15	演習のまとめ [課題（準備）]期末試験の取り組み（1～3h）

時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲に関しての調査や練習は、事前に各自で進めてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3T7B113】音楽療法・基礎	音楽総合学科		1年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	MTコース必修／W/MT・P/MT・Or/MTコース選択必須		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。	◎
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。	◎
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。	△
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができる。	△

授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います

観点別評価

評価の観点 ／ 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	40	30	-	-	70
発表	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。
テキスト	『標準 音楽療法入門〈下〉実践編』日野原 重明 （監修）、篠田 知璋（編集）、加藤 美知子（編集） 春秋社(3,520円)ISBN:4393934482
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を推し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的記述を分けて記述する（4H）
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）
8	目標に応じた音楽活動の計画１：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）
9	目標に応じた音楽活動の計画２：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）
10	目標に応じた音楽活動の計画３：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。[課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）
11	事例から目標と活動を設定する演習１：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
12	事例から目標と活動を設定する演習２：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
13	事例から目標と活動を設定する演習３：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題（復習）]レポート課題に取り組む（4H）
15	レポート課題の作成　　レポート課題を作成、完成させる。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）

時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7B216】音楽療法実践Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	MT・W/MT・P/MT・Or/MTコース必修		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	学内の演習。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。	△
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。	◎
	技能	ギターのオープンコードを用いて弾き歌いができる。	◎
	関心・意欲・態度	時間外での自習を意欲的に行い、課題を発表できる。	△

授業内容	音楽療法の現場への見学参加を主に行い、現場での適切な行動を学ぶ。 ギターのオープンコードを学び、弾き歌いができるようにする。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	-	40	-	-	40
実技試験	-	-	40	-	40
発表（グループ発表含む）	10	-	-	5	15
受講態度	-	-	-	5	5
合　計(点)	10	40	40	10	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	反転授業により事前にビデオ視聴を行い授業に臨む（ギターコードの予習）。
課題に対するフィードバック	レポートのコメントを次の授業時に返します。
テキスト	
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。 ギターはアコースティックギター（スチール弦）をピックで弾く形が望ましいので購入を検討するならば参考にしてください。学内専用（学外持ち出し不可）のギターで練習することが可能です。

内容

実施回	授業内容・目標
1	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]残りの課題5曲の練習（1H）
2	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題5曲） [課題（復習）]残りの課題6曲の練習（1H）
3	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）
4	ミュージックベルのアンサンブル（長調のⅠ-Ⅳ-Ⅴ） [課題（復習）]長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。（1H）
5	ミュージックベルのアンサンブル（短調のⅠ-Ⅳ-Ⅴ） 宿題の発表。1人でグループを指揮する。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。[課題（復習）]短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる（1H）
6	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [課題（復習）]自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する（1H）
7	ギター各部の名称、メンテナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード①Em、E [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習（1H）
8	オープンコード②A、A7、Ｄ、Ｄ７ [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習（1H）
9	オープンコード③G、G7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習（1H）
10	オープンコード⑤C、C7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習（1H）
11	オープンコード⑥F／アルペジオ [課題（復習）]学んだ内容の復習、試験課題曲の選定（1H）
12	試験の準備①自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする（1H）
13	試験の準備②自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする（1H）
14	試験の準備③自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける（1H）
15	実技試験(ギター弾き歌い）後期課題の説明 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）

時間外での学修	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	ギター（クラシック、フォークどちらでも可）は各自用意してください。学校のギターは学内のみの練習に貸し出しします。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7S217】音楽療法実践Ⅱ	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	MT・（W/MT）・（P/MT）・（Or/MT）コース必修		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	学内の演習と学外における実践。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。	△
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。	◎
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。	◎
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをすることができる。グループ内で共同作業ができる。	◎

授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	-	30	-	-	30
受講態度	-	-	20	20	40
発表（グループ発表含む）	10	-	10	10	30
合　計(点)	10	30	30	30	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格がありません。 施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生は最終試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題の提出をGoogle Formで行います。必要に応じて反転授業（実技の事前学習）を行います。
課題に対するフィードバック	レポートについてのコメントを授業内で行います。
テキスト	
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション１：対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する（1H）
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション２：活動計画 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する（1H）
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション３：活動の準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する（1H）
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション４：リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する（1H）
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション５：実践 [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気をつけた点についてふりかえる（1H）
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレパートリー１　[課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する（1H）
7	クリスマスコンサートのレパートリー２ [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する（1H）
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する（1H）
9	障害者施設に出向いての音楽活動ボランティア１ [課題（復習）]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [課題（復習）]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成（1H）
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する（1H）
12	障害者施設へのボランティア活動２ [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする（1H）
13	先週の振り返り、記録の提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考にする（1H）
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [課題（復習）]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる（1H）
15	授業のまとめ、レポート課題について [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる（1H）

時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】

受講学生へのメッセージ	多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3W5B217】専攻楽器Ⅰ	音楽総合学科		1年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	服部　篤典		
資格・制限等	W･W/MTコース必修		
実務家教員	オーケストラ25年		
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。 最終週に演奏会形式の発表を行います。 伴奏は無しとします。		
到達目標	思考・判断・表現	楽曲の曲想を把握し、個性を大切にした演奏ができる。○	○
	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる。◎	◎
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップを目指すことができる。○	○

授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。 楽曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かで個性を大切にした演奏を目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	10	10	20	40
合　計(点)	-	20	60	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘された箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。
テキスト	
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス 授業の進め方、楽曲の選び方、練習法、レッスンに臨む姿勢などを詳細に説明 「課題」復習・予習：配布プリントを熟読した上で楽曲を調べる。(1h)
2	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：楽曲前半の音取り。(1h)
3	個人レッスン 楽曲前半の音取りチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の音取り。(1h)
4	個人レッスン 楽曲後半の音取りチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半のリズムなどに留意して練習。(1h)
5	個人レッスン 楽曲前半のリズムなどをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半のリズムなどに留意して練習。(1h)
6	個人レッスン 楽曲後半のリズムなどをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現記号に留意して練習。(1h)
7	個人レッスン 楽曲前半の表現力をチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現記号に留意して練習。(1h)
8	個人レッスン 楽曲後半の表現力をチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲を通して楽譜通り演奏できるように練習。(1h)
9	個人レッスン 楽曲全曲を通して楽譜通り演奏できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の個性を生かした練習。(1h)
10	個人レッスン 楽曲前半の個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の個性を生かした練習。(1h)
11	個人レッスン 楽曲後半の個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲を通しての個性を生かした練習。(1h)
12	個人レッスン 楽曲全曲を通して個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個々の不得手な箇所の集中練習。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	個人レッスン 個々の不得手な箇所をチェック１ 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個々の不得手な箇所の集中練習。(1h)
14	個人レッスン 個々の不得手な箇所をチェック２ 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：次週の発表に向けて仕上げ練習。(1h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を中心に練習。(1h)

時間外での学修	課題として、レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：27時間】
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘を受けた箇所は必ず復習し、不明な点などがある場合は必ず質問し、その都度解決するよう心掛けてください。オフィスアワーは水曜日5限、木曜日4限　B104研究室

【3W5S218】専攻楽器II	音楽総合学科		1年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	服部　篤典		
資格・制限等	Wコース必修／　W/MTコース選択必須		
実務家教員	オーケストラ25年		
授業方法	楽曲の譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます。 最終週に演奏会形式の発表を行います。 原則として伴奏は有りとします。		
到達目標	思考・判断・表現	楽曲の曲想を把握し、個性を大切にした演奏ができる。○	○
	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる。◎	◎
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行い、スキルアップを目指すことができる。○	○

授業内容	個々の技量に見合った楽曲を決め、個人レッスンを中心に行います。 楽曲の曲想を理解した上で、楽譜に忠実な演奏から表現力豊かで個性を大切にした演奏を目指します。 前期より難易度の高い楽曲を選びます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	10	10	20	40
合　計(点)	-	20	60	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘を受けた箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。
テキスト	
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。

内容

実施回	授業内容・目標
1	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：楽曲前半の音取り。(1h)
2	個人レッスン 楽曲前半の音取りチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の音取り。(1h)
3	個人レッスン 楽曲後半の音取りチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半のリズムなどに留意して練習。(1h)
4	個人レッスン 楽曲前半のリズムなどをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半のリズムなどに留意して練習。(1h)
5	個人レッスン 楽曲後半のリズムなどをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の表現記号に留意して練習。(1h)
6	個人レッスン 楽曲前半の表現力をチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の表現記号に留意して練習。(1h)
7	個人レッスン 楽曲後半の表現力をチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲を通して楽譜通り演奏できるように練習。(1h)
8	個人レッスン 楽曲全曲を通して楽譜通り演奏できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲前半の個性を生かした練習。(1h)
9	個人レッスン 楽曲前半の個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲後半の個性を生かした練習。(1h)
10	個人レッスン 楽曲後半の個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：楽曲全曲を通しての個性を生かした練習。(1h)
11	個人レッスン 楽曲全曲を通して個性が発揮できているか否かをチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個々の不得手な箇所の集中練習。(1h)
12	個人レッスン 個々の不得手な箇所のチェック 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れなどに留意し練習。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	個人レッスン 伴奏合わせ１ 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れなどに留意し練習。(1h)
14	個人レッスン 伴奏合わせ２ 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：次週の発表に向けて仕上げ練習。(1h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表 「課題」復習・予習：発表時の反省点を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を中心に練習。(1h)

時間外での学修	課題として、レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：27時間】
受講学生へのメッセージ	レッスン時に指摘を受けた箇所は必ず復習し、不明な点などがある場合は必ず質問し、その都度解決するよう心掛けてください。オフィスアワーは水曜日5限、木曜日4限　B104研究室